

神田外語大学

グローバル・リベラルアーツ学部年報

2023（令和5）年度

令和6年9月

「グローバル・リベラルアーツ学部年報 2023」刊行にあたって

「グローバル・リベラルアーツ学部年報」(以下「年報」)は、2021年4月に設置されたグローバル・リベラルアーツ学部(以下「本学部」)について、その設置構想から学年進行(4年間)期間における教育活動、研究活動、国際交流活動、施設・設備及び管理運営の状況等の記録を取りまとめるものです。

この年報では、本学部の文部科学省への届出の際に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載の内容に基づき、その進捗(自己点検・評価の観点を含む)を主な内容として記録して行きます。

2023年度においては、以下のような取り組みを中心的行いました。

4月1日に入学式を挙行し、67名の3期生を受け入れるとともに、4月10日開催のGLAキャリア・メンター制度のセッションでは、2年生にはメンターとの出会いの場として「Startセッション」を行い、3年生は「Graduationセッション」において、キャリア・メンター制度の終了に伴い本格的な就職活動がスタートしました。

また、Freshman Orientation Camp 2023を4月5日から4月11日にかけて、本学の国際研修センター/ブリティッシュヒルズにて行ない、同月11日から2023年度の授業を開始しました。

第1期生(3年生)の専門教育については、2年次から開講した3領域の専門教養科目と講読演習を引き続き開講したほか、2年次後期の研究演習Ⅰに引き続き研究演習Ⅱを開講しました。さらに後期のSUNYへの長期留学を踏まえ、4年次の卒業研究に取り組むことになります。

第3期生は、6月上旬には、福島県にあるブリティッシュヒルズにて、リトアニア、インド、マレーシア・ボルネオ、エルサレムの4地域に関連するゲストレクチャーとオンラインでつながり、海外スタディ・ツアーの国内研修を実施しました。6月下旬には、上記の4カ国・地域からいずれか1カ所に渡航し、約2週間のフィールドワークを実施しました。

入学者選抜は、アドミッション・ポリシーに掲げる能力を確認するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、海外経験特別選抜、一般選抜、共通テストプラス入試及び共通テスト利用入試の6つの方式で入学者選抜を実施し、66名(令和5年度67名、令和4年度81名、令和3年度59名)の入学者を得ました。

以上のような取り組みを取りまとめ、ここに刊行する運びとなりました。

ご協力いただいた皆様のお陰であること、心から御礼申し上げます。

2024年9月

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部
学部長 金口 恭久

目次

I. 理念・目的	1
II. 学生受入れ（入学者選抜）の取組	4
1. 入学者選抜の方法等について	
2. 入学者選抜の状況について	
III. 教育課程編成の取組	9
1. 教育課程の編成について	
2. 教員の組織体制について	
IV. 学生支援の取組	32
1. 学習支援の取組について	
2. キャリア支援の取組について	
V. 管理運営の取組	39
1. 情報公表の取組について	
2. 教育内容等の改善を図るための取組について	
3. 管理・運営体制について	
4. 施設・設備について	

I. 理念・目的

2021年4月に設置された、グローバル・リベラルアーツ学部設置の趣旨・必要性は、『文部科学省に設置届出の際に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」』（以下「設置の趣旨等を記載した書類」という。）に次のとおり記載している。

2013年5月の教育再生実行会議の提言「これからの大学教育等の在り方について（第三次提言）」においては、「社会の多様な場面でグローバル化が進む中、大学は、教育内容と教育環境の国際化を徹底的に進め世界で活躍できるグローバル・リーダーを育成すること、グローバルな視点をもって地域社会の活性化を担う人材を育成すること」が求められた。

また、2019年5月の同会議の提言「技術の進展に応じた教育の革新、新時代に対応した高等学校改革について（第十一次提言）」においても、人、物、情報が国境を越えて行き交うグローバル化が急激に進展し、Society5.0の基盤となるAI、IoTなどの技術の開発に関する国際的な競争が激化する中で、幅広い分野で新しい価値を提供できる人材を養成することが求められている。

一方、今、地球上では、依然として紛争は収束せず、安全保障や通商摩擦、宗教対立、移民・難民問題、地球温暖化や新型感染症をはじめとする様々な解決困難な課題が噴出ししている。他方、日本国内でも、アジア諸国を中心とするインバウンドの爆発的増大など、一昔前の欧米が基軸であった対外関係から考えられなかったようなグローバルな状況が展開している。

このような現代社会では、多様な価値観や考え方を相互に理解し尊重しながら、共生を図って行くことなしには、平和と安定、発展はあり得ないと考える。わずかなコミュニケーション・ギャップにより、意図しない、人類にとって悲惨な結果が起きることが否定できない。

直近の例として取り上げたいのが、今回、世界的な規模で発生した新型コロナウイルス感染症への対応である。当初、各国は国境を閉ざし人の出入りを制限するというグローバル化の価値観に逆行する対策でこの危機を乗り越えようとした。しかし、試行錯誤や科学的知見の積み重ねの結果、結局、世界に広がった感染症を収束に向かわせるためには、もはや一国だけでは対応では不十分である。仮に、特定の国だけで収束したとしても、他の国や地域で蔓延していれば、現代世界は成り立っていない。つまり、国や地域、体制などの違いを超えグローバルな視座に立って協力することが重要であることを人類は再認識し、現在、世界の潮流は再びそのような方向に向かおうとしている。

人類の想像を超えてめまぐるしく変化する現代世界において、本学は、建学の理念に深く想いを寄せ、高い英語力と幅広い教養を身につけ、海外での多様な活動を体験することで、グローバルな視座に立って発想し、世界と日本の困難な課題に立ち向かい、その平和の希求と繁栄の維持に主体的に貢献できる人材、言わば、「現代社会が求める真のグローバル人材」を育てることが使命と考え、この30年間で培ってきた教育をさらに深化させるとともに、新たな取組にチャレンジするための「グローバル・リベラルアーツ学部」（以下「本学部」という。）を2021年4月に開設することとした。

以上のような設置の趣旨・必要性に基づく本学部の教育研究の目的は、学則第2条第3項に次のように定めている。

グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科は、広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

2023年度取り組み

2023年4月1日(土)	令和5年度神田外語大学入学式を挙行(於:幕張メッセ)し、67名の学生を受け入れ
4月7日(金)	Freshman Orientation Camp 2023(学内実施) GLACommunity:新入生向け交流会実施
4月10日(月)	前期授業開始 GLA キャリア・メンター制度「Graduation&Start セッション」を実施
5月26日(金)	GLACommunity:新入生を交えた全体会開催
6月5日(月)	海外スタディ・ツアー国内研修@ブリティッシュヒルズ(6月8日まで)
6月14日(水)	「研究演習I(ゼミ)説明会」開催
6月24日(土)	海外スタディ・ツアー(現地研修)(7月6日まで)【研修地域:リトアニア】
6月25日(日)	海外スタディ・ツアー(現地研修)(7月6日まで※)【研修地域:エルサレム、インド、マレーシア/ボルネオ】 ※インドは7月7日まで
7月6日(木)	ニューヨーク州立大学(SUNY)New Paltz 校担当者来校に伴う交流会の開催(対面、GLA コモンズ)
7月11日(火)	NHK ディレクター・カテリーナさんとウクライナ戦争について語る ~GLA 学生との対話
7月22日(土)	ニューヨーク州立大学(SUNY)第1回留学オンライン説明会
8月21日(月)	GLA 学部1期生41名、SUNY 長期留学派遣
9月11日(月)	ニューヨーク州立大学(SUNY)Geneseo 校担当者来校に伴う交流会の開催(対面、GLA コモンズ)
9月14日(木)	後期授業開始
10月5日(木)	GLACommunity:千葉市長との意見交換会に参加
10月7日(土)	総合型選抜<前期>を実施(合否発表11月1日)

10月19日(木)	教員向けワークショップ開催 (GLA 学部教員向けFD)
10月21日(土)	ニューヨーク州立大学 (SUNY) 第2回留学オンライン説明会
10月27日(金)	・GLA 学生がイスラエルとパレスチナについて話し合う ・NHK「首都圏ネットワーク」でGLA 学生らのディスカッションの様子が放送
11月21日(火)	学校推薦型選抜／総合型選抜〈後期〉／海外経験特別選抜入試を実施 (合否発表12月1日)
11月22日(水)	ニューヨーク州立大学に留学中のGLA 学部の学生11名が、ニューヨークの国連本部を訪問
12月1日(金)	大学院合同説明会 (国際大学、国際教養大学、千葉大学、東京外国語大学)
12月18日(月)	ニューヨーク州立大学 (SUNY) 第3回留学オンライン説明会
12月21日(木)	ニューヨーク州立大学(SUNY) Purchase 校奨学金説明会 (オンライン開催)
1月5日(金)	ニューヨーク州立大学(SUNY)Purchase 校担当者および同校留学中のKUIS1 期生とのオンライン交流会と相談会の開催
2024年1月6日(土)	「1日就職セミナー for GLA」の実施 (7日まで)
2月3日(土)	一般選抜〈前期〉入試 (6日まで) を実施 (合否発表2月12日)
2月9日(金)	GLA 学部「グローバル・ガバナンス」ゼミ (担当: 高橋麻奈講師) の学生が、日本WHO 協会が主催する2022年・2023年の世界保健デーのテーマに沿った動画コンペにおいて、優秀賞を受賞
2月17日(土)	ASC 主催入学前交流会 (18日まで)
3月7日(木)	千葉・リトアニア交流事業「2024 リトアニアウィーク」(14日まで) に2名の在学生在が参加
3月7日(木)	ニューヨーク州立大学 (SUNY) 予防接種と健康診断のオンライン説明会

II. 学生受入れ（入学者選抜）の取組

本学部では、以下のとおり、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めている。

神田外語大学の理念は、「言葉は世界をつなぐ平和の礎」である。これを受け、グローバル・リベラルアーツ学部の教育は、「高度な英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る人材を育成」することを目的としている。

本学部では、次のような学生を広く求める。

- (1)幅広い教養を身につける意欲を持ち、生涯にわたって自立学習者であろうとする人
- (2)グローバルな視点から現代社会の課題に取り組み、平和に貢献する意欲を持つ人
- (3)本学部での学修に必要な一定程度の英語能力を修得している人
- (4)本学部での学修に必要な基礎的学力としての知識・技能・思考力を備える人
- (5)他者と積極的にコミュニケーションを図り、協働する姿勢を持つ人
- (6)留学を通じて自己を成長させようとする強い意志を持つ人

1. 入学者選抜の方法等について

上記のアドミッション・ポリシーに基づいて、本学部での学修に必要な、一定程度の英語能力を修得していること、論理的・批判的・創造的思考力を有していること、大学での学修を通じて更にそれを伸ばし、生涯にわたって自立学習者たりえること、グローバルな事象に関心を持ち、将来、世界の平和と発展に積極的に貢献する意思を有すること、留学を通じて自己を成長させる意思を有し、異文化を尊重し、異環境下で他者と共存できること、幅広い分野について学修を深めたいという意味を有することを確認するため、6つの方式で以下のとおり2023年度入学者選抜を実施した。

(1) 入学区分、募集人員、出願基準・条件

入試区分	募集人員	出願基準・条件
総合型選抜	17名	・本学部が定める英語資格基準を満たす者
学校推薦型選抜	14名	・本学部を第一志望とし学校長の推薦がある者 ・当該年度に高等学校(中等教育学校を含む)卒業見込みの者及び高等専門学校の3年次以上を修了見込みの者 ・本学部が定める高等学校等の評定基準を満たす者 ・本学部が定める英語資格基準を満たす者
海外経験特別選抜	若干名	・高等学校(中等教育学校の後期課程を含む)3年間のうち1学年に相当する期間を外国において修了した者及び修了見込みの者

		・本学部が定める英語資格基準を満たす者
一般入試	16名	・高等学校(中等教育学校を含む)を卒業した者及び 当該年度卒業見込みの者、高等学校卒業程度認定試 験合格者及び合格見込み者等
共通テストプラス	3名	
共通テスト利用	10名	
合計	60名	

(2) 入試日程

入試区分		出願期間	試験実施日	合否発表日
総合型選抜	(10月選考)	2023年9月7日 (木) ~9月13日(水)	10月7日(土) または 10月8日(日)	11月1日(水)
	(11月選考)	2023年 11月1日(水) ~11月8日(水)	11月21日(火) または11月22 日(水)	12月1日(金)
学校推薦型 選抜	公募学校推薦 (11月選考)			
	指定校推薦 (11月選考)			
	公募学校推薦 (12月選考)	2023年 12月1日(金) ~12月10日(日)	12月16日(土) または12月17 日(日)	12月22日(金)
	指定校推薦 (12月選考)			
海外経験特別選抜		2023年 11月1日(水) ~11月8日(水)	11月21日(火) または11月22 日(水)	12月1日(金)
一般入試	(2月選考)	2024年 1月4日(木) ~1月19日(金)	2月3日: 2月3日(土) 2月5日: 2月5日(月) 2月6日: 2月6日(火)	2月12日(月・ 休)
	(3月選考)	2024年 2月12日(月・ 休) ~2月20日(火)	3月2日(土)	3月5日(火)
共通テストプラス		2024年 1月4日(木) ~1月19日(金)	本学試験: 2月5日(月)	2月12日(月・ 休)
共通テスト利用		2024年 1月4日(木) ~1月12日(金)	本学試験(面接): 2月3日(土)、2 月5日(月)、2月 6日(火)から選 択	2月12日(月・ 休)

(3) 選抜方法

入試区分	方法	形式
総合型選抜 海外経験特別選抜	①書類審査 ②日本語プレゼンテーション(10分以内) *プレゼンテーション実施後、自身のプレゼンテーションについて振り返りをし、リフレクションシートに記入 ③質疑応答・面接(約15分)	・Zoom アプリを使用しオンライン形式で実施 ・リフレクションシートの記入には、Google フォームを使用
学校推薦型選抜	①書類審査 ②個別面接(約15分)	・個別面接は Zoom アプリを使用しオンライン形式で実施 ・大学内で面接受験する場合においても試験官とは別室で受験する形式
一般入試	①個別学力審査(英語・国語) ②個別面接(約10分)	・個別学力審査は本学内において対面形式で実施 ・個別面接は受験生が大学内または自宅等での受験を選択する形式
共通テストプラス	①個別学力審査(英語・国語) + 大学入学共通テスト1科目(外国語・国語以外) ②個別面接(約10分)	・個別面接は Zoom アプリを使用しオンライン形式で実施 ・大学内で面接受験する場合においても試験官とは別室で受験する形式
共通テスト利用	①大学入学共通テスト(英語・国語) + その他1科目(3科目型)、その他2科目(4科目型) ②個別面接(約10分)	・個別面接は Zoom アプリを使用しオンライン形式で実施 ・大学内で面接受験する場合においても試験官とは別室で受験する形式

2. 入学者選抜の状況について

(1) 入学者の選抜結果

募集年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員超過率
2021年度	60名	427名	408名	147名	59名	0.98
2022年度	60名	315名	308名	224名	81名	1.35
2023年度	60名	334名	323名	148名	67名	1.11
2024年度	60名	203名	191名	134名	66名	1.1

(2) 志願者及び入学者の状況

地域別の志願者及び入学者の状況は下表に示す。2024年度入学者選抜で志願があった

のは 24 都道府県で、そのうち入学者が出たのは 21 都道府県であった。なお、出身校の所在地をもって出身地域としてカウントした。

都道府県別志願者数・入学者数集計表

地方区分	都道府県	2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度	
		志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
北海道・東北	北海道	11	2	10	3	18	4	1	1
	青森県	10	3	2	1	5	2	1	1
	岩手県	4	3	4	2	0	0	3	2
	宮城県	5	3	4	1	5	1	4	2
	秋田県	1	1	3	1	2	0	0	0
	山形県	4	0	2	0	3	0	3	1
	福島県	6	0	9	2	10	3	3	1
関東	茨城県	13	2	23	5	18	3	12	1
	栃木県	10	0	6	2	12	3	6	2
	群馬県	2	0	1	1	6	0	3	2
	埼玉県	32	3	19	3	26	5	26	10
	千葉県	118	16	88	19	98	21	58	17
	東京都	110	12	69	18	58	9	45	9
	神奈川県	25	4	16	5	10	2	6	1
中部	新潟県	15	0	12	3	10	3	4	3
	富山県	0	0	5	2	1	1	0	0
	福井県	2	0	3	1	0	0	0	0
	山梨県	5	1	1	0	0	0	1	0
	長野県	8	2	3	1	9	3	3	2
	岐阜県	1	1	2	2	0	0	1	1
	静岡県	19	2	11	2	16	3	5	1
	愛知県	2	0	2	1	4	0	3	0
近畿	三重県	0	0	0	0	3	0	0	0
	滋賀県	0	0	1	0	0	0	0	0
	大阪府	1	0	1	1	0	0	1	1
	兵庫県	1	0	1	0	1	0	0	0
四国	鳥取県	0	0	0	0	3	1	0	0
	島根県	0	0	1	0	0	0	0	0
	高知県	1	0	0	0	1	1	0	0
九州・	福岡県	3	0	2	0	2	0	1	1

沖縄	佐賀県	0	0	0	0	0	0	3	1
	長崎県	3	1	0	0	0	0	0	0
	熊本県	2	1	0	0	1	1	0	0
	宮崎県	0	0	0	0	3	0	0	0
	鹿児島県	5	1	1	0	1	0	2	2
	沖縄県	4	1	3	1	5	0	1	0
その他	高認※1	3	0	6	1	3	1	5	2
	外国等※2	1	0	2	2	0	0	2	2
	認定	0	0	1	0	0	0	0	0
	専修学校 の高等課 程	0	0	1	1	0	0	0	0
合計		427	59	315	81	334	67	203	66

※1：高認：高等学校卒業程度認定試験 ※2：外国の学校等修了者

Ⅲ. 教育課程編成の取組

1. 教育課程の編成について

(1) 基本方針

本学部における教育課程編成の基本方針は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

本学部の教育研究目的は、「広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせること」(学則第2条第3項第2号)としていること、また、上記「1. 設置の趣旨及び必要性」及び「2. 学部・学科等の特色」を踏まえ、以下のとおり教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)を定めている。

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や能力を備えた人材を育成するため、以下の点を重視し、体系的にカリキュラムを編成する。

① 教育内容

(ア) 多様な学問領域にわたる幅広い教養

GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目及び演習科目(卒業研究を含む)に区分された各科目を適切な年次に配当し、人文科学、社会科学、自然科学、数理・データサイエンス分野などの幅広い学問領域をバランスよく学ぶカリキュラムを提供する。加えて、1年次前期の海外スタディ・ツアー、3年次後期のニューヨーク州立大学(SUNY)への留学において、日本国内では得られない様々な体験や、地域、言語、宗教、価値観などの異なる文化背景を持つ人々との交流を通じて、広義の教養を身につけることを目指す。

(イ) 人間と文化、社会と共生、平和にかかわるグローバルな事象に対する深い理解

1年次前期に「グローバル・チャレンジ・ターム」を設け、異文化・異環境を知ることを目的とした入学直後の海外スタディ・ツアーを基軸に、関心のあるテーマを掘り下げ、大学4年間における学びを方向付けるための教育を提供する。2年次以降に、文化、歴史、宗教、社会や共同体、国際関係やガバナンスなどについての知識に基づき、深い文脈でグローバルな事象を理解する力を養う。具体的には、カリキュラムの中核をなす3領域の専門教養科目群(“Humanities”、“Societies”、“Global Studies”)を設置し、人文科学と社会科学のさまざまな知識と方法論を身につけ、それらを総合的に活用する能力を研鑽する教育を提供する。

(ウ) グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力

1年次前期の英語の授業では、プレゼンテーション/ディスカッション、ライティングなど、スキルごとの到達目標を定め、継続性、統合性、個性を重視した指導により、段階的に目標達成に取り組む。1年次後期から2年次にかけては内容・言語統合型学習(CLIL: Content and

Language Integrated Learning) の授業や英語で行われる専門教養科目を展開することで高度な英語運用能力を身につけさせるとともに、3年次後期にはSUNYへの半年間の留学の機会を提供する。

(エ) 論理的かつ批判的な思考力

1年次に大学での学びに必要な基本的な読解力と言語表現力を養成する科目「基礎演習(アカデミック日本語)」を配置し、文献や情報の収集・読解の方法とレポートの書き方を学ぶ。2～3年次にはアクティブ・ラーニングを基本とする演習形式の授業「講読演習」、「研究演習」と、英語による“Discussions and Presentations”、“Media Literacy”、“Global Communication”等の授業を配置し、日本語と英語の両方における読解力、対話力、言語表現力を高めていくことで総合的に論理的・批判的思考力を研鑽する。さらに3年次後期にはSUNYへの半年間の留学を設定し、異文化環境において多角的で柔軟な思考力を修練する。最終的には4年次に取り組む卒業研究においてそれぞれの能力を十分に発揮することを目指す。(オ) 社会的な課題の発見と解決に貢献する力

1年次は、異文化環境において各地域の現状を見聞し、その体験の意味とその後の学修の方向性を学生自らが考察するための問題解決型の授業「グローバル・ディスカバリー」、オムニバス講義で平和や共生に対してどのように各学問領域からのアプローチが可能かを考える「グローバル・リベラルアーツ入門」、身体活動やアクティビティを通じて他者との協働性を実践的に培う「アドベンチャーコミュニケーションプログラム(GLA)」を置く。これらの学びと研究の方向性に従って、「専門教養科目」において具体的な課題発見・解決の方法や知識を修得し、その成果を「卒業研究」にまとめていく。また、1年次に「キャリアデザイン(GLA)」を、3年次前期に「グローバル・キャリア」を置き、学生がグローバル社会で自己のキャリアをいかに確立し社会と関わっていくかを考察する機会を設ける。

(カ) 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

異なる文化や価値観、社会の多様性に対する理解を深めるため、GLA基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目、演習科目といったグローバルな視野を身につける科目を配置する。また、学生が異文化や共生社会を理解し尊重する姿勢を修得するために、異なる環境での適応力育成の機会となる、入学直後の「グローバル・チャレンジ・ターム」や、3年次後期のSUNYへの半年間の留学の機会を提供する。

② 教育方法

・授業では、アクティブ・ラーニングを導入することにより、学生の専門知識とその運用能力、思考力と積極的な学修態度を養う。

・1～2年次はスキルを中心とした英語授業を展開し、1年次後期からはCLILの授業を履修させることで、「英語を」学ぶよりも「英語で」実践的かつ専門的な学修・運用能力を高める機会を提供する。

・学生の主体的な学修態度と学修能力を養うため、問題解決型授業を実施する。学生が課題を発見し、具体的な解決策を考えることができる教育を提供する。発表の場を通じて、学生のコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップを養成する。

・現代のグローバル社会で必要な幅広い教養を身につけるため、外国語科目の他、GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目、演習科目を教育課程に含める。基礎教養科目 B 群では、AI やデータサイエンスを身につけるための科目を含み、文理融合の教養を育む。

③ 学修成果の評価

・学修成果は、学生の授業科目の履修状況、各教育課程で達成した成果、および学士課程全般の成果を、教職員を中心として行う直接評価と、学生が自己の学修成果を主観的に判断する自己評価等の間接評価を通じて定期的に評価することとする。

・学生の学修状況は量と質の双方から観察し、学修ポートフォリオに記載させるなど、学修成果の可視化を図るとともに、学生の 4 年間の成長を段階的に評価する。

このような教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）のもと、2023 年度 GLA 学部
の授業科目は、以下の科目群、カリキュラム表及びシラバス（主要）に基づき、4 月 11 日
から授業を開始した。

【開講科目一覧】

科目区分	必修	科目 コード	講義名称	単 位 数
外国語	必修	I80001	Academic Reading(a)	1
外国語	必修	I80002	Academic Reading(b)	1
外国語	必修	I80003	Academic Writing(a)	1
外国語	必修	I80004	Academic Writing(b)	1
外国語	必修	I80005	Academic Discussions & Presentations(a)	1
外国語	必修	I80006	Academic Discussions & Presentations(b)	1
外国語	必修	I80007	English for Academic Purposes(a)	2
外国語	必修	I80008	English for Academic Purposes(b)	2
外国語	必修	I80009	Self-Directed Learning	1
外国語	必修	I80010	TOEFL ITP 演習	1
外国語	必修	I80011	Critical Reading(a)	2
外国語	必修	I80012	Critical Reading(b)	2
外国語	必修	I80013	Advanced Writing(a)	2
外国語	必修	I80014	Advanced Writing(b)	2
外国語	必修	I80015	English for GLA I (Introduction to Global Issues)	2
外国語	必修	I80016	English for GLA II (Media Literacy)	2
外国語	必修	I80017	English for GLA III (Global Communication)	2
外国語	必修	I80018	English for GLA IV (Peace Studies)	2
外国語	必修	I80019	English for GLA V (Sustainable Development Goals)	2

GLA 基礎	必修	310001	グローバル・ディスカバリー I	1
GLA 基礎	必修	310002	グローバル・ディスカバリー II	1
GLA 基礎	必修	310003	グローバル・ディスカバリー (フィールドワーク)	4
GLA 基礎	必修	310004	グローバル・リベラルアーツ入門 I	1
GLA 基礎	必修	310005	グローバル・リベラルアーツ入門 II	2
GLA 基礎	必修	310006	グローバル・ヒストリー	4
GLA 基礎	必修	310007	キャリアデザイン(GLA)	2
GLA 基礎	必修	310008	アドベンチャーコミュニケーションプログラム(GLA)	1
GLA 基礎	必修	310009	グローバル・キャリア	2
基礎教養	選択必修	310101	数的思考法	2
基礎教養	選択必修	310102	デジタル・シチズンシップ論	2
基礎教養	選択必修	310103	データ・サイエンス概論	2
基礎教養	選択必修	310104	コンピュータ・サイエンス概論	2
専門教養	選択必修	580001	宗教文化論 I	2
専門教養	選択必修	580002	宗教文化論 II	2
専門教養	選択必修	580003	芸術文化論 I	2
専門教養	選択必修	580004	芸術文化論 II	2
専門教養	選択必修	580005	人間と文学	2
専門教養	選択必修	580006	人間と思想	2
専門教養	選択必修	580007	世界近現代史	2
専門教養	選択必修	580008	文化人類学	2
専門教養	選択必修	580009	共生社会論	2
専門教養	選択必修	580011	社会と多様性 II	2
専門教養	選択必修	580012	社会とサステナビリティ	2
専門教養	選択必修	580013	現代社会とイノベーション	2
専門教養	選択必修	580014	言語・文化とコミュニケーション	2
専門教養	選択必修	580015	デジタル・メディアと社会	2
専門教養	選択必修	580016	異文化コミュニケーション論	2
専門教養	選択必修	580017	グローバル・ガバナンス I	2
専門教養	選択必修	580018	グローバル・ガバナンス II	2
専門教養	選択必修	580020	地域とグローバル世界 II	2
専門教養	選択必修	580021	グローバル平和論	2
専門教養	選択必修	580022	国際法 (GLA)	2
専門教養	選択必修	580023	国際機構論 (GLA)	2
専門教養	選択必修	580024	国際開発論 (GLA)	2
演習科目	必修	608001	アカデミック日本語 I	2

演習科目	必修	608002	アカデミック日本語Ⅱ	2
演習科目	選択必修	608003	講読(HUM) (宗教文化)	2
演習科目	選択必修	608007	講読(SOC) (社会と多様性)	2
演習科目	選択必修	608009	講読(SOC) (現代社会とイノベーション)	2
演習科目	選択必修	608013	講読(GS) (グローバル平和論)	2
演習科目	必修	608101	研究演習Ⅰ	2
演習科目	必修	608102	研究演習Ⅱ	2

【カリキュラム表】

グローバル・リベラルアーツ学科			1年次									
			前期(グローバル・チャレンジ・ターム) ※1				後期					
			第1ターム		第2ターム		授業科目		単位			
授業科目		単位		授業科目		単位		授業科目		単位		
外国語科目	英語科目	必修	Academic Reading (a)	1	グローバル・ディスカバリー (フィールドワーク)			Academic Reading (b)	2			
			Academic Writing (a)	1		Academic Writing (b)	2					
			Academic Discussions & Presentations (a)	1		Academic Discussions & Presentations (b)	2					
			English for Academic Purposes (a)			2	English for Academic Purposes (b)	2				
			Self-Directed Learning			1	TOEFL ITP 演習	1				
				TOEFL ITP 500点 (TOEFL /BT 61点相当) の取得を目標とする。		1						
	選択外国語科目	選択必修										
GLA基礎科目		必修	グローバル・ディスカバリーⅠ	1	グローバル・ディスカバリーⅡ	1	グローバル・ヒストリー	4				
			グローバル・リベラルアーツ入門Ⅰ	1	アドベンチャー・コミュニケーションプログラム(GLA)	1	グローバル・リベラルアーツ入門Ⅱ	2				
			グローバル・ディスカバリー(フィールドワーク)		4	キャリアデザイン(GLA)	2					
基礎教養科目		A群					一般教養科目群 (外国語学部と 共通開講)		※2			
		B群					デジタル・リテラシー 科目群					
専門教養科目		選択必修							※3			
演習科目	基礎	必修	アカデミック日本語Ⅰ				2	アカデミック日本語Ⅱ	2			
	講読	選択必修										
	研究	必修										
履修登録上限単位数(CAP)			必修のみ(16単位)				必修のみ(19単位)					

※1 1年次前期は「グローバル・チャレンジ・ターム」となっており、約3週間の短期留学である海外スタディ・ツアーを軸に、前半8週、後半8週での合計16週で、大学4年間における学びを方向付ける期間となっている。
 : 海外留学期間

2年次				3年次				4年次					
前期		後期		前期		後期		前期		後期			
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
Critical Reading (a)	2	Critical Reading (b)	2	English for GLA V	2	長期留学 (SUNY)	2	〈達成目標〉 卒業時まで(に、TOEFL ITP 580点 (TOEFL /BT 92点相当)を取得でき るように努める。(p16参照)					
Advanced Writing (a)	2	Advanced Writing (b)	2										
English for GLA I	2	English for GLA III	2										
English for GLA II	2	English for GLA IV	2										
選択外国語 I (a)/(b)を同じ言語で4単位 中国語、スペイン語、韓国語、フランス語、ドイツ語、アラビア語													
				グローバル・キャリア	2								
人文科学分野: 歴史学 I、歴史学 II、哲学 I、哲学 II、倫理学 I、倫理学 II、宗教学 I、宗教学 II、文学 I、文学 II、美術史学 I、美術史学 II、言語学 I、言語学 II、心理学 I、心理学 II、教育学													
社会科学分野: 社会学 I、社会学 II、法学 I、法学 II、憲法 I、憲法 II、政治学 I、政治学 II、経済学 I、経済学 II、経営学 I、経営学 II、統計学 I、統計学 II													
自然科学分野: 化学 I、化学 II、物理学 I、物理学 II、生物学 I、生物学 II、自然科学概論 I、自然科学概論 II													
2~4年: 数的思考法、デジタル・シチズンシップ論、データ・サイエンス概論、コンピュータ・サイエンス概論 3~4年: ビッグデータ解析論、エビデンスと評価													
Humanities (人間と文化) 宗教文化論 I、宗教文化論 II、芸術文化論 I、 芸術文化論 II、人間と文学、人間と思想、 世界近現代史、文化人類学				Societies (社会と共生) 共生社会論、社会と多様性 I、社会と多様性 II、 社会とサステナビリティ、現代社会とイノベーション、 言語・文化とコミュニケーション、デジタル・メディアと社会、 異文化コミュニケーション論				Global Studies (グローバル・スタディーズ) グローバル・ガバナンス I、グローバル・ガバナンス II、 地域とグローバル世界 I、地域とグローバル世界 II、 グローバル平和論、国際法、国際機構論、国際開発論					
※3分野から最低各4単位履修すること。								10	:各2単位				
Humanities (人間と文化) 講読(宗教文化)、講読(芸術文化)、 講読(文学/思想)、講読(歴史)				Societies (社会と共生) 講読(社会と多様性)、講読(社会とサステナビリティ)、 講読(現代社会とイノベーション)、講読(言語・文化と コミュニケーション)				Global Studies (グローバル・スタディーズ) 講読(グローバル・ガバナンス)、講読(地域とグロー バル世界)、講読(グローバル平和論)					
研究演習 I				2	研究演習 II				2	研究演習 III			
								卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)					
20単位		20単位		20単位		(16単位)		30単位		30単位			

※2 3年次後期留学で修得した単位を4単位まで充当できる。
 ※3 3年次後期留学で修得した単位を10単位まで充当できる。
 ■ : 海外留学期間

【主なシラバス [授業の目的]

English for GLA V (Sustainable Development Goals)

Throughout the Global Liberal Arts program at KUIS, you have heard several times about the United Nations Sustainable Development Goals (SDGs). But why do we have them? When and how were they created? How are these goals measured? What member states of the United Nations track their progress in achieving these goals? This course aims to strengthen and deepen your knowledge of the SDGs and international development issues. By drawing on skills learned from courses such as EAP and advanced writing, you will enhance your ability to critically reflect on and analyze global issues while developing the academic skills necessary for studying abroad. In this course, you will read and watch a variety of sources that describe SDG-related issues and discuss them critically with your

peers. You learn about what the business community is doing to promote SDGs worldwide. You will also research the efforts of one member country in terms of their progress in meeting one of the 17 SDGs. These efforts will culminate in a presentation and submission of a country profile, in which you will introduce that member country to the rest of the class and produce a formal written profile of it.

グローバル・キャリア

[COURSE DESCRIPTION]

グローバル社会でキャリア形成を試みるときに IDENTITY の自覚は一つの出発点になる。この講座では皆さんが留学中に自分たちが世界のマイノリティーであることを自覚しながら IDENTITY を考えそれを英語で表現し、留学先で出会う多様な友人達と議論するための準備をする。

生まれてから死ぬまでの時間は限られるが、我々はその時間をどのように生きて死んでいくかを考え悩みながら職業、結婚相手、住む場所などを決めていく。いや実際には、自然の摂理、宿命に従い自分の意志とは無関係に生老病死は殆ど決まってしまうだろうが、制約の中で「正しく迷うこと」を学び、自分の意思で判断しながら決める範囲を少しでも広げようと考え悩みながく場所と、そのヒントを提供するのがこのキャリア授業である。グローバル社会に飛び込む留学は自分が決断する大きな賭けだが、私はその賭けの勝率を出来るだけ高くする一つの知恵が IDENTITY を意識することだと思う。ここでは考える切り口として、日本に縁を持ってしまった自分自身の IDENTITY を深く考え、反対に異なる背景を持つ人々を自分と相対化して観る。グローバルの中の日本として、あらためて日本文化や伝統の基礎知識を整理し自分独自の切り口を意識すると感受性が高まり自分のユニークさに気づき、また他者への理解と興味が深まるであろう。それがグローバル社会で活躍する場所を見つけることにもつながっていくのである。グローバル・キャリアを考えるとときの IDENTITY 論のテーマは無数にある。留学を活用するために、私が体験したことを切り口に自分自身の立ち位置、IDENTITY、そして将来 VISION を「VIGOSTA」(造語)という思考法／フレームワークを用いて皆さんと一緒に考えていきたい。講義は日本語と英語を併用する。

研究演習 (ゼミ) II

[COURSE INTRODUCTION]

研究演習 II は「卒業研究に向けてのステップ 2」となる。より具体的なテーマの研究・設定、予備リサーチ(先行研究、基礎文献、資料収集)、文献の吟味から研究計画書の策定までを行う。学生 はそれまでの本学部での学びを振り返るとともに、演習での発表と質疑応答を通じて自らの研究テーマの方向を定める。教員は授業でのグループ指導と個別指導を交えてその補助を行う。3 年次後期のアメリカ留学もリサーチ期間の一環として位置づける。

GLA Research Seminar II is the second step toward the Senior Thesis (Capstone Project). Students will further engage in setting the theme, conducting preliminary research and

literature review, reading documents, and research plan making. Students will reflect on past studies in the GLA, and set the direction of their research themes. Instructors will guide student research at the group and individual levels. The study abroad in the junior year (second semester) will be part of the research process.

(2) 特色と特記事項

教育課程編成の基本方針に基づく本学部の教育課程は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおりその概要を記載している。

本学部の教育課程は、①外国語科目、②GLA 基礎科目、③基礎教養科目、④専門教養科目、⑤演習科目及び⑥卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）に体系的に区分され、次のとおり編成している【資料 1、2】。

① 外国語科目

(ア) 英語科目

英語運用能力の養成に力を注ぎ、オンライン授業を活用しつつ、順次性のある体系的な教育課程を編成する。本学部では、2 回の留学を念頭に置き、英語 4 技能（「聞く (listening)」、「読む (reading)」、「話す (speaking)」、「書く (writing)」）習得のための授業に加え、コンテンツ・ベースの英語 (CLIL) 科目を設置する。CLIL は、海外留学の準備として、様々な専門分野の入門レベルの内容を英語で学ぶ科目である。

(イ) 選択外国語科目

選択外国語科目として、中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語、イタリア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語を履修可能とする。2 年次以降の履修が必修である。

② GLA 基礎科目

1 年次の必修科目として、「グローバル・ディスカバリー I・II」（グローバル課題学習及び課題解決型授業）、「グローバル・リベラルアーツ入門 I」（グローバル時代の教養について学ぶ）、「グローバル・リベラルアーツ入門 II」（グローバル時代の平和について学ぶ）、「キャリアデザイン (GLA)」「アドベンチャー・コミュニケーションプログラム (GLA)」（協力が求められる身体活動及びコミュニケーション・アクティビティ）、「グローバル・ヒストリー」がある。「海外スタディ・ツアー」に必要な GLA 基礎科目を事前・事後に履修し、1 年次の「グローバル・チャレンジ・ターム」のプログラムの一環とする。

3 年次前期では、「グローバル・キャリア」を必修とし、3 年次後期の海外留学とその後のキャリア・プランを学生が見据えることをねらいとする。

③ 基礎教養科目

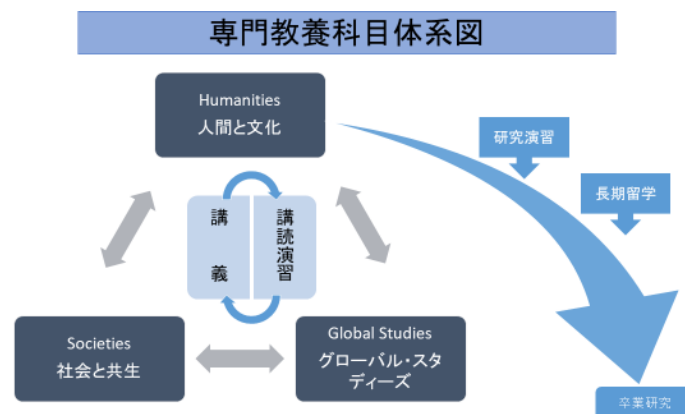
A 群(外国語学部と共有する科目群)では、人文科学分野（「歴史学」、「哲学」等）、社会科学分野（「社会学」、「法学」等）、自然科学分野（「自然科学概論」、「生物学」等）の科目を設定する。

B 群は本学部独自の科目群で、「数的思考法」、「デジタル・シチズンシップ論」、「データ・サイエンス概論」、「コンピュータ・サイエンス概論」、「ビッグデータ解析論」、「エビデンスと評価」の科目を設定し、文理融合の教養教育を涵養する。

④ 専門教養科目

専門教養科目は、「Humanities (人間と文化)」「 Societies (社会と共生)」「 Global Studies (グローバル・スタディーズ)」の科目群から構成される。「Humanities」では、「宗教文化論」、「芸術文化論」、「人間と文学」、「人間と思想」、「世界近現代史」、「文化人類学」から選択履修す

る。「Societies」では、「共生社会論」、「社会と多様性」、「社会とサステナビリティ」、「現代社会とイノベーション」、「言語・文化とコミュニケーション」、「デジタル・メディアと社会」、「異文化コミュニケーション論」から選択履修する。「Global Studies」では、「グローバル・ガバナンス」、「地域とグローバル・世界」、「グローバル平和論」、「国際法」、「国際機構論」、「国際開発論」の科目からの選択履修が可能である。なお、これら 3 つの講義科目群に対応した演習科目（講読演習）が用意されており、これにより研究演習、そして卒業研究へと専門性が深化する仕組みとなっている。



⑤ 演習科目（アカデミック日本語、研究演習）及び卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）の必修化

1 年次の基礎演習として、「アカデミック日本語 I・II」を通年で実施し、日本語能力の向上のほか、論理的思考と課題設定能力を育成する。

2 年次後期以降は、「講読演習」を履修する。「講読演習」には、専門教養科目同様の 3 つの科目群（「Humanities」、「Societies」、「Global Studies」）があり、各科目に関連して文献精読・発表・議論を行う。今まで履修した科目で得た知識を深め、学生が主体的かつ実践的に学ぶことを目的とする。

本学部の学生は、3 科目（半期科目の「研究演習 I」・「研究演習 II」と、通年科目の「研究演習 III」）の研究演習（ゼミ）を履修する。本学部では、ゼミは必修であり、2～4 年次にかけてゼミを漸次履修することにより、学生の関心のあるテーマを設定し、適切な方法論を用いた卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）へと円滑につなげる。

⑥ 卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）

本学部では、卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）の履修は、文章（文献）を読む力、討論する力、文章を書く力、論理的に考え、分析する力を育成する上においても有意義であるとの考えに基づき、研究演習の履修とともに必修である。本学部では、大学生活の学びの集大成（Capstone）として卒業研究を完成させる。

GLA学部教育課程の概要						
授業科目／学年		概要	1年	2年	3年	4年
外国語科目	英語科目	高度な英語運用能力の獲得	→	→	→	→
	選択外国語科目	もう一つの言語運用能力の獲得	→	→	→	→
GLA基礎科目		リベラル・アーツを知る、学ぶ スタディツアーの準備、振り返り	→	→	→	→
基礎教養科目	A群	幅広い教養を身につける	→	→	→	→
	B群	AIやデータサイエンスを身につける	→	→	→	→
専門教養科目	Humanities(人間と文化)	3分野にわたり、発展的な教養を講義と演習(講読)により身につける	→	→	→	→
	Societies(社会と共生)		→	→	→	
	Global Studies(グローバル・スタディーズ)		→	→	→	
演習科目	基礎演習	日本語能力の向上、論理的思考と課題設定能力を育成	→	→	→	→
	講読演習	既習科目で得た知識を深め、学生が主体的かつ実践的に学ぶ	→	→	→	→
	研究演習	学生の関心のあるテーマを設定し、卒業研究へとつなげる	→	→	→	→

①特色

また、教育課程における特色は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

また、本学部での教育課程編成上の特色は以下の9点である。

- ① 建学の理念に基づく「平和」についての徹底的な学修
- ② 本学は「言葉は世界をつなぐ平和の礎」を建学理念としている。この本学の建学理念である「平和」を学部教育の根幹に据えて、言語・コミュニケーションを含む幅広い観点から学修する。
- ② 高度な英語運用能力の修得
 - ・グローバル化の時代に不可欠な英語力を高め、卒業時まで TOEFL ITP580 (TOEFL iBT92相当) を達成することを目標とする。
- ③ これからの社会で必要とされる幅広い教養教育の涵養
 - ・人文・社会科学から数理・自然科学にわたる教養科目を設置し、文理融合の教育を実践する。
- ④ 徹底した少人数教育
 - ・英語科目のうち言語運用能力そのものの向上を目的とした授業については原則として20名以下、内容・言語統合型学習(CLIL)の授業の場合は30名以下にする。
 - ・専門教養科目については1クラスの人数を、20~40名程度となるよう開講する。
 - ・「研究演習」は1クラス10名程度を標準とする。
- ⑤ 演習科目及び卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)の必修化

- ・ 学生による自発的学習の場である演習科目は必修とする。
 - ・ 入学時は「アカデミック日本語」の履修により日本語での「考える力」と「書く力」の強化を図る。また、2～4年次では「研究演習」(ゼミ)を継続して履修することにより、「卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)」につなげるなど、演習科目を大幅に拡充する。
- ⑥ 課題解決型学習、アクティブ・ラーニングによる授業編制
- ・ 一般科目についても、出来る限り、ゼミ形式又はアクティブ・ラーニング形式で実施する。
- ⑦ 「グローバル・チャレンジ・ターム」導入
- ・ 1年次前期を本格的な大学教育に先立つ「ギャップ・ターム期間」として位置づけ、特別なカリキュラムを設定する。
 - ・ 期間の中核に「海外スタディ・ツアー」を位置づけ、事前学修・事後学修を併せた効果的なプログラムを構築する。
- ⑧ 2回の留学を必修化
- ・ 入学直後の「海外スタディ・ツアー」(必修)は、異文化・異環境を体験し、グローバルな感性・多文化共生の観念を身につけ、将来を見据えた学修の目標立てに資することがねらいである。
 - ・ 3年次後期に長期留学(SUNY: I セメスター)を必修にする。さらに海外ボランティア等の活動を推奨する。
- ⑨ 教育成果の可視化
- ・ 各種の学修成果の可視化と大学時代に大学の内外で学修した成果を証明する仕組み(ポートフォリオ形式など)を構築する。

以上、①から⑨の特色のうち、2023年度における特記事項は次のとおり。

② 特記事項

⑤ 演習科目及び卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)の必修化

2年次から開講した3領域の専門教養科目群と講読演習を引き続き開講したほか、3年次前期には2年次後期の研究演習Ⅰに引き続き研究演習Ⅱを開講し、Ⅰ及びⅡを合わせて10の研究演習を開講した。さらに3年次後期のSUNYへの長期留学を踏まえ、4年次の卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)に取り組むこととなります。

研究演習Ⅰの研究テーマ

科目区分	担当教員	研究テーマ
人間と文化	上野 太祐	広義の「芸術文化」と「平和」を意識した、実存的問題関心に基づく《読み》と《問い》の時空
	植田 かおり	哲学入門演習ープラトン『饗宴』を読む
	鈴木 健太	歴史と「人間と文化 (HUMANITIES)」Ⅰ
	吉田 京子	ジャラルッディーン・ルーミーの『マスナヴィー』を通じて宗教分野研究の基礎を学ぶ。
社会と共生	石井 雅章	ESG と企業
	釜田 友里江	社会言語学の基本的な概念や理論について理解を深める
	知念 渉	人に話を聞きに行く
グローバル・スタディーズ	河越 真帆	研究の方法論（文献精読、ケース・スタディ、比較研究）を学ぶ
	阪田 恭代	平和と安全保障について考える（問う、調べる、書く）
	高橋 麻奈	グローバル社会を協働して動かす方法とは？という問いへの「地球市民」としての答えを探しだす

研究演習Ⅱ研究テーマ

科目区分	担当教員	研究テーマ
人間と文化	上野 太祐	広義の「芸術文化」と「平和」を意識した、実存的問題関心に基づく《読み》と《問い》の時空
	植田 かおり	哲学・思想演習
	鈴木 健太	歴史と「人間と文化 (HUMANITIES)」Ⅱ
	吉田 京子	宗教から見る人間性
社会と共生	石井 雅章	持続可能な社会システムの構築に関する研究
	釜田 友里江	実際に会話データの分析を行う
	知念 渉	社会学の魅力を知る、先行研究の課題・到達点・研究計画を発表する、文章化する
グローバル・スタディーズ	河越 真帆	比較的視座から自分の研究テーマを決定する
	阪田 恭代	平和と安全保障について考える（問う、調べる、発表する、書く）
	高橋 麻奈	グローバルな課題に、どのように向き合い・貢献するのか？地球市民としての解決策をデザインする力を養う

⑧ 2回の留学を必修化

本学部では、ディプロマ・ポリシーをふまえ、短期海外研修及び長期留学の計2回の留学を必修としている。

1回目は、入学直後の1年次の6～7月にかけて行われる国内外含む約3週間の「海外スタディ・ツアー」であり、2回目は、3年次の後期のニューヨーク州立大学（SUNY）への1セメスター留学である。

2回のうちの1回目の「海外スタディ・ツアー」について、「設置の趣旨等を記載した書類」において次のとおり記載している。

① 目的・概要

本学部独自の取組として、入学後のセメスターにおいて、「海外スタディ・ツアー」をコア・カリキュラムとする「グローバル・チャレンジ・ターム」を設定する。

このタームは、いわゆる「ギャップ・ターム」としてとらえており、本格的な学部教育がスタートする前の半年間で、何のために学ぶのか、どう自身の能力や関心を涵養するのか、また、学んだことを用い社会でどう自己実現していくかなどを、学生に深く考えさせるための時間として位置づけ、特別なカリキュラム編制を行っている。

そのカリキュラムの中核となるのが、地域ごとに特色のあるフィールドワークを組み込んだ「海外スタディ・ツアー」であり、入学直後の第1年次の6～7月に約3週間の日程で実施する。

「海外スタディ・ツアー」は、以下の諸点を目的として実施する。

(ア) 入学後間もない時期に実施することから、第一義的に、異文化にふれることで刺激(カルチャー・ショック)を与えると同時に、異環境下での生活・学修を体験することで、グローバルな感性、多文化共生力の涵養、新たな課題や困難に直面した際の問題解決能力の醸成を図ること

(イ) 建学の理念である平和について深く学ぶこと、また、地域によっては、学校、児童養護施設などでボランティア活動を行うことにより、格差、貧困、環境、移民・難民問題などグローバル化した現代社会が抱える課題について、自分自身その解決に何ができるか考えさせること

(ウ) 各国・地域ごとに、専門教養科目で学ぶ「人間と文化」、「社会と共生」、「グローバル・スタディーズ」の各分野の課題やSDGsに関連したテーマを深く学び、1年次後期からの学修の方向性や動機づけを図ること

このようなことから、「海外スタディ・ツアー」では、本学部の学修内容に合致し、かつ、通常、大学初年次では渡航する機会が限られると思われるインド、リトアニア、エルサレム、マレーシア・ボルネオに学生を派遣することとしている。

なお、学生を海外に送るにあたっては、今般の新型コロナウイルス感染に伴う収束状況を慎重に見極めるほか、これら地域の状況の変化やその他感染症の発生など、安全対策が最大の課題と認識しており、この点に最大限配慮して実施することとしている。

2023年度は6月下旬出発の海外スタディ・ツアーの渡航前の6月上旬に、福島県にあ

る本学の国際研修センター/ブリティッシュヒルズにて、リトアニア、インド、マレーシア・ボルネオ、エルサレムの4地域に関連するゲストレクチャーとオンラインでつながり、現地に関するレクチャーを受講する、国内研修を実施した。

6月下旬には、上記の4カ国・地域からいずれか1カ所に渡航し、約2週間のフィールドワークを実施した。

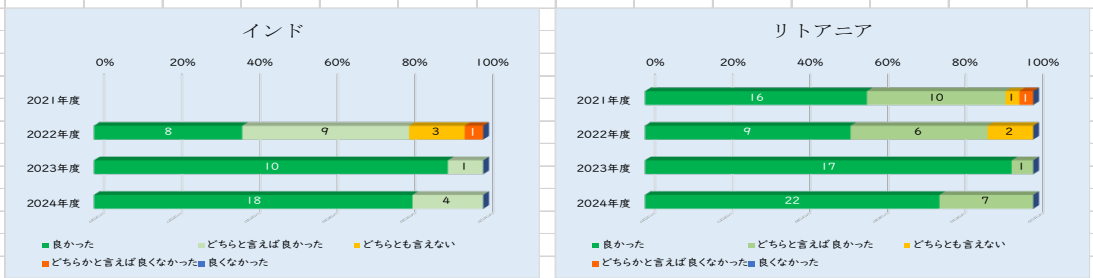
国内研修@ブリティッシュヒルズ				
	6月5日(月)	6月6日(火)	6月7日(水)	6月8日(木)
7:00	7:30 KUISシニアホール集合 8:00 KUIS出発 12:00 British Hills到着 & Guide to dining	朝食		6:50 チェックアウト&集合 7:00 British Hills出発 10:00 バス到着 福島フィールドトリップ 東日本大震災被災地研修 10:20-11:20 双葉町ケウオーク 11:35-12:25 東日本大震災原子力災害資料館 12:30-13:00 ラッシュアライヴ 13:00-14:00 振り返りワークショップ 14:00 バス出発 19:00 KUIS到着
9:00 ~ 10:30		1限 9:00~10:30 英語研修	1限 9:00~10:30 英語研修	
10:40 ~ 12:10		2限 休憩	2限 海外ST参加者フォーム入力 自立学習	
13:10 ~ 14:40	3限 14:00 オリエンテーション & チェックイン	12:40 昼食		12:15 昼食
14:50 ~ 16:20	4限 講演①:異文化理解について (釜田先生)	3限 「My ST Portfolio」 & Researching ST	3限 Team-building (江川先生・吉田先生)	
16:30 ~ 18:00	5限 講演②:大澤みずほ氏 (JVC/レスナチ事務所)	4限 講演③:オーレリウス・ジーカス氏 (駐日リトアニア大使)	4限 講演④:文化と多様性 (朴先生)	講演⑤:東日本大震災被災地 研修に関する事前学習 (金口先生) 当日のディスカッション
19:00 ~ 21:00	夕食	夕食		
21:00 ~ 23:00	6限 当日のプレゼンテーション	5限 講演④:イスラエルと「レスナチ」 (金口先生)	5限 休憩&着替え 夕食(コースデザイナー) 18:30~20:00	自立学習
	自立学習	6限 講演⑤:James Ho氏 (スタン・バーク・工科大学) 19:00~20:00	自立学習	

2023年度「海外スタディーツアー」日案

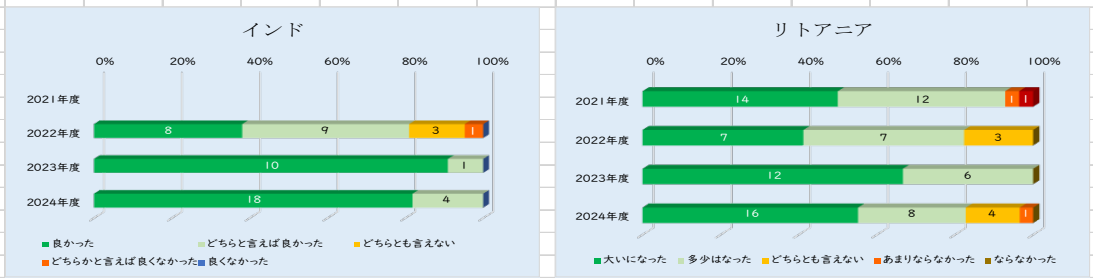
	リトアニア	エルサレム	インド	マレーシア/ボルネオ
6月24日(土)	日本発			日本発/クチン着
6月25日(日)	ビリニュス着/カウナス	日本発	日本発/プネ着	クチン
6月26日(月)	カウナス	テルアビブ着/エルサレム	プネ	クチン
6月27日(火)	カウナス	エルサレム	プネ	クチン
6月28日(水)	カウナス	エルサレム	プネ	クチン
6月29日(木)	カウナス	エルサレム	プネ	クチン
6月30日(金)	カウナス	エルサレム	プネ	クチン
7月1日(土)	カウナス	西岸地域	プネ	クチン
7月2日(日)	カウナス	イスラエル北部	プネ	クチン
7月3日(月)	ビリニュス	エルサレム	プネ	クチン/クアラルンプール
7月4日(火)	ビリニュス	エルサレム	プネ/デリー	クアラルンプール
7月5日(水)	ビリニュス発	テルアビブ発	デリー	クアラルンプール発
7月6日(木)	日本着	日本着	デリー発	日本着
7月7日(金)			日本着	

GLA学部「海外スタディ・ツアー」アンケート
満足度の推移
＜2021年度～2024年度＞

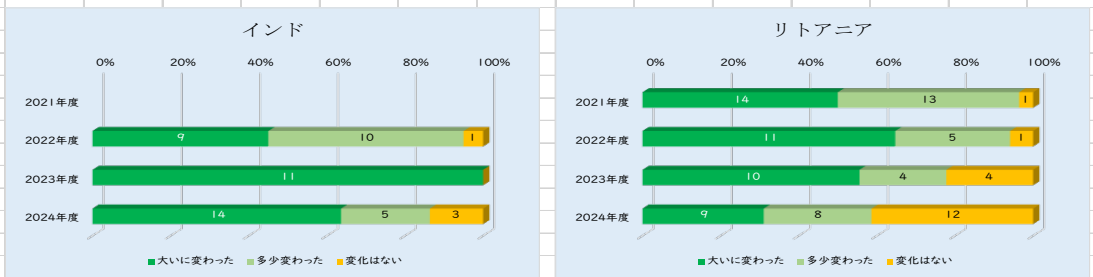
Q1. 海外スタディ・ツアーは、全体としてどうでしたか？



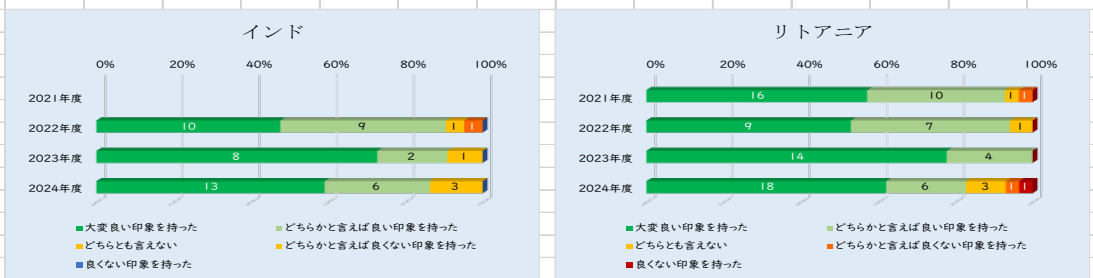
Q2. 今回の海外スタディ・ツアーは、今後、あなた自身の学びを進めていく上や将来の進路を考えていくうえで、の気づきやきっかけになりましたか？



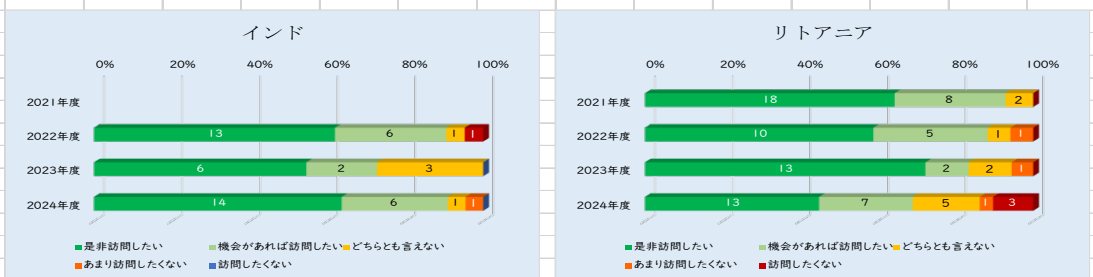
Q3. 今回の訪問で、これまであなたが抱いていたその国・地域のイメージや印象が変わりましたか？



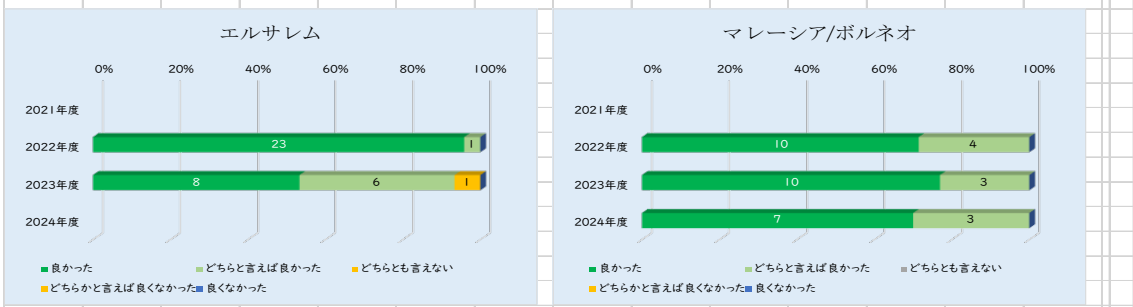
Q4. 海外スタディ・ツアーに参加した後の現在、あなたは、その国・地域にどのような印象をもっていますか。



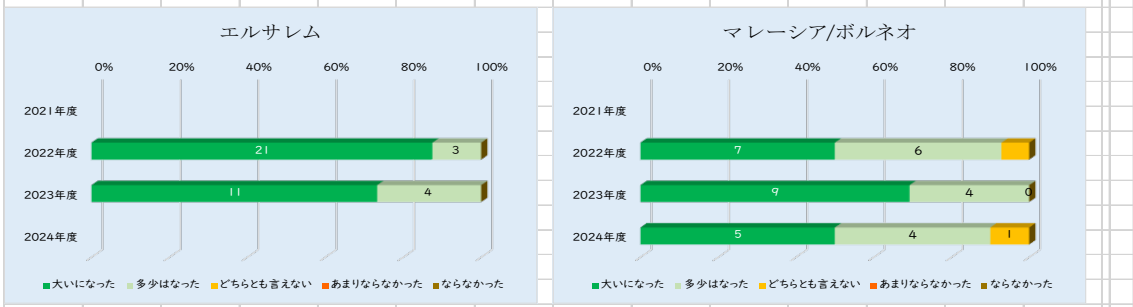
Q5. あなたは、近い将来、また、その国・地域を訪問したいですか？



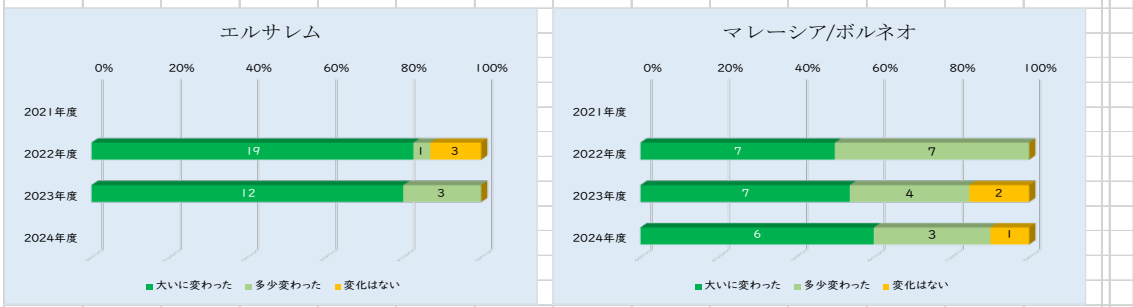
Q1. 海外スタディ・ツアーは、全体としてどうでしたか？



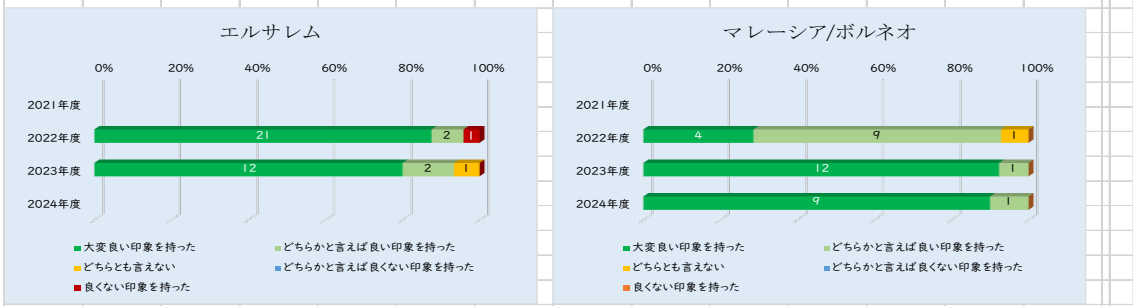
Q2. 今回の海外スタディ・ツアーは、今後、あなた自身の学びを進めていく上や将来の進路を考えていくうえで気づきやきっかけになりましたか？



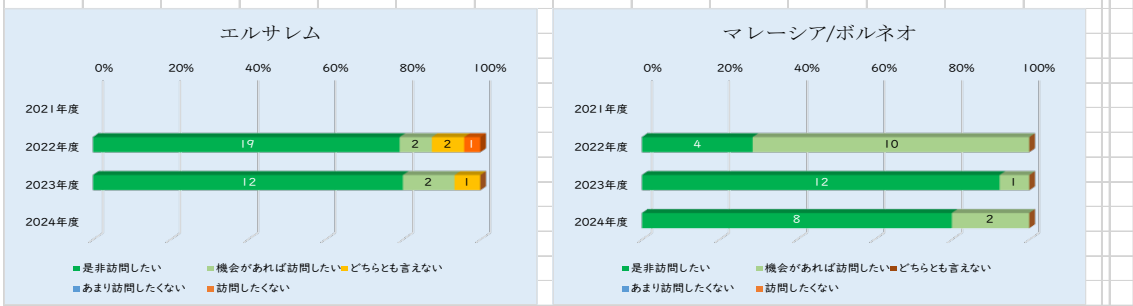
Q3. 今回の訪問で、これまであなた自身が抱いていたその国・地域のイメージや印象が変わりましたか？



Q4. 海外スタディ・ツアーに参加した後の現在、あなたは、その国・地域にどのような印象をもっていますか。



Q5. あなたは、近い将来、また、その国・地域を訪問したいですか？



1 期生 ニューヨーク州立大学(SUNY)への派遣状況

3 年次後期の必修となっているニューヨーク州立大学 (SUNY) への長期 (1 学期間) 留学プログラムに第一期生 (3 年次生) 41 名が留学し、異文化環境において多角的で柔軟な思考力を修練しました。

	Fredonia	Geneseo	Oswego	Cortland	New Paltz	Purchase	Old Westbury	計
学部	0	5	11	10	1	1	7	35
ESL	2				4			6
計	2	5	11	10	5	1	7	41
総取得単位数：535.5 単位(一人あたり平均 13 単位)								
平均 GPA：3.225/4 段階中								

2 期生ニューヨーク州立大学(SUNY)留学に向けた準備状況

GLA 学部 2 期生全員を対象に、3 年次後期の SUNY 留学に関して、説明会を 5 回 (うち 1 回は奨学金、授業料の減免関係、うち 1 回は健康診断・予防接種関係)、および留学前オリエンテーションを 1 回開催し、カウンセリングを行いながら留学や留学先の決定に向けた準備を進めた。

2023 年 7 月 22 日 (土) 9:00~11:00	ニューヨーク州立大学(SUNY)第 1 回留学オンライン説明会 ●SUNY 各キャンパスの紹介 ●留学条件、留学スケジュール
2023 年 10 月 21 日(土) 9:00~11:00	ニューヨーク州立大学(SUNY)第 2 回留学オンライン説明会 ●第 1 回説明会をベースにした最新情報・更新情報の案内 ●SUNY 各キャンパスの特徴、1 期生の履修状況
2023 年 12 月 18 日(月) 12:20~13:00	ニューヨーク州立大学(SUNY)第 3 回留学オンライン説明会 ●渡航までの準備スケジュール ●手続きに必要なもの/準備する書類 ●留学に必要な英語力と GPA ●費用について ●費用支払いのタイミング ●留学費用支援・各種教育ローン
2023 年 12 月 21 日(水)	ニューヨーク州立大学(SUNY)Purchase 校奨学金説明会 (オン

14:00～	ライン) ●Purchase 校の新たな奨学金の案内 ●学内外の奨学金および授業料減免制度の説明。
--------	---

2024年3月7日(木) 15:30～	予防接種と健康診断書のオンライン説明会 ●クリニックの紹介 ●予防接種における一般的なご案内 ●各種予防接種及び英文診断書作成料金 ●来院の際の持ち物等
------------------------	--



**GLA学部
第3回ニューヨーク州立大学
(SUNY) 留学説明会**

**神田外語大学
2023年12月18日**

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
説明会	●		←			→			←	→			●	
英語レベル期日							1/15迄							
SUNY キャンパス確定							1/15迄							
SKYUSへの 申込・書類提出							1/31迄							
SUNY 出願書類提出							1/31迄							
ビザ申請期間								←	→					
航空券取得										←	→			
予防接種提出									←	→				
履修登録										←	→			
寮手配										←	→			
費用納入													←	→

⑨ 教育成果の可視化

2021年4月の開設時から運用を開始した KUIS ポートフォリオにて、日々の学習活動を記録し可視化を行っている。

2022年度においては、2021年度の実績を踏まえて「グローバル・リベラルアーツ入門」「アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱ」を中心にした科目で学習サイクルの入力やフィードバックが定着した。

また、2年次の修了を見込んで、当初から計画していたディプロマサプリメントの開発に着手し、出力項目や集計方法、およびレイアウトの検討から開始し、学生が KUIS ポートフォリオの画面上での確認に加えて PDF での出力・印刷によって活用できるように設計した。実際の成績データなども合わせて登録し、2022年度末までに完成した。

2023年度は、KUIS ポートフォリオの本格的な運用が可能となった。

DIPLOMA SUPPLEMENT

1. INFORMATION ABOUT THE HOLDER OF THE QUALIFICATION		2. INFORMATION ABOUT THE QUALIFICATION	
1.1 Name (Given Name / Family Name)		2.1 Name of Qualification	Bachelor of Arts
1.2 Date of Birth		2.2 Main Field of Study	Global Liberal Arts
1.3 Student Identification Number		2.3 Awarding Institution	Kanda University of International Studies (KUIS)
1.4 Nationality(ies)	Japan	2.4 Official length of the program	4 Years
1.5 Native Language	Japanese	2.5 Year of Graduation(Month / Year)	

3. Educational Goals of Faculty of Global Liberal Arts

- ・ 広く一般知識を助け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解する。
- ・ 専門知識や技術を習得し、研究するとともに、高度な英語運用能力と多文化共生力を備える。
- ・ 世界の多様な課題に立ち向かい、早稲と弊害の根幹に主体的に貢献し得る能力を身につける。

4. Graduate Attributes to be Achieved upon Graduation

- ・ 多様な学問領域にわたる幅広い教養
- ・ 人間と文化、社会と共生、早稲にかかわるグローバルな事象に対する深い理解
- ・ グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力
- ・ 論理的かつ批判的思考力
- ・ 社会的な課題の発見と解決に貢献する力
- ・ 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

5. Achieved Competencies by the Holder against DP

DP	Summary of Achievement (Date: 2023/08/29)
1 (4.9 / 5.0)	I took a critical reading class and achieved a speed improvement in reading English. Furthermore, I achieved to be able to understand more deeply by questioning the written contents. GPA(3.8/4.0)
2 (4.9 / 5.0)	Took HUMAN BEINGS AND LITERATURE. I was able to see the influence of human life on literature. I was able to deepen my understanding by investigating the historical background in which the books and movies were produced.
3 (5.0 / 5.0)	Took English for GLA (Media Literacy). By analyzing media problems in global society, presenting them, and receiving feedback, I was able to not only learn new words, but also learn about the current state of global society. TOEFL ITP: 527 (2022/10/29)
4 (5.2 / 5.0)	Took INTRODUCTION TO DATA SCIENCE. I have achieved the skill of analyzing data from the results of questionnaires and thinking more clearly and logically by quantifying what factors influence the results, rather than just looking at them in words. 批判的思考力スコア (GPS-Academic) : 45.8 (2022/03/21)
5 (5.2 / 5.0)	Took RESEARCH SEMINAR I (Masaki Ishi) by reading the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction. I was able to understand the current state of modern disaster countermeasures. From there, we were able to find social issues and achieved the idea of solutions. 思考力発見スコア (GPS-Academic) : 44.85 (2022/03/21)
6 (5.0 / 5.0)	Took English for GLA(Global Communication). I thought I was accepting diversity, but I was able to understand that there is still a world I don't know about. And the way of thinking about different cultures and values has changed. Volunteered : Volunteered with high school students from Shibuya Kyokko Gakuen High School. In order to think about well-being in Futaba, I understood the local traditions and customs.

6. Target Attributes (DP)

DP1: 多様な学問領域にわたる幅広い教養
 DP2: 人間と文化、社会と共生、早稲にかかわるグローバルな事象に対する深い理解
 DP3: グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力
 DP4: 論理的かつ批判的思考力
 DP5: 社会的な課題の発見と解決に貢献する力
 DP6: 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

7. Achievement Details

1. Capstone Project

Title	Year of Completion /
Summary	
Supervisor	

2. Coursework (Provide details on the coursework that highlights your achievement.)

English for GLA(Global Communication)
 RESEARCH SEMINAR I (Masaki Ishi)
 INTRODUCTION TO DATA SCIENCE
 English for GLA (Media Literacy)
 HUMAN BEINGS AND LITERATURE
 Academic Writing
 Academic Reading
 Critical Reading
 SPANISH (Ib)
 Modern Society and Innovation
 DIGITAL CITIZENSHIP
 DIGITAL MEDIA AND SOCIETY
 EVIDENCE AND EVALUATION
 RELIGIONS AND CULTURE I
 English for GLA V (SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS)
 LAW I
 READINGS (SOC) (LANGUAGE, CULTURE AND COMMUNICATION)
 INTERNATIONAL ORGANIZATIONS (GLA)
 STATISTICS I

3. Co-curricular Work (Provide details on the co-curricular activities in which you participated.)

Study tour online program

4. Extra-curricular Work (Provide details on your extra-curricular work.)

A conversation with a Fujitsu executive
 Judging committee for the SDGs contest sponsored by Adobe
 Volunteer poster creation for Hakuoh Junior High School
 Futaba Town Well-Being Support Staff at Shibuya Kyokko Gakuen High School
 Campus Advisor
 Support staff of Ichikawa Gakuen Highschool

5. Personal Philosophy (State how you have grown up and what you have become through your academic life at KUIS.)

I would like to research "How human life affects the spread of disaster damage". I research the landslide disaster, especially focus on the disaster which happened in Hiroshima prefecture. This disaster connected to progress in Human Life. If human life had not evolved on the cliffs, there would have been no victims caught up in the landslides.

6. Career Goals (State your career goals in relation to your personal philosophy.)

After graduating, I would like to go on to a graduate school abroad and learn data analysis. In particular, I would like to learn more about Institutional Research and use those skills in a higher education institution. (2023/01/12)

2. 教員の組織体制について

本学部の教員組織の編成の考え方及び特色は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

(1) 教員配置の考え方

本学部では、多様な学問領域にわたる幅広い教養とグローバルな事象を多面的に理解するための専門的知識を有する人材を育むために、各専門分野で博士号もしくはそれに準じる専門的な知識・経験を有する者を教員として採用・配置する。

また、英語を含む語学の授業では少人数のクラス編成を基本としており、このようなクラ

ス編成が可能となるよう手厚い教員配置を行う。特に、各言語の教授法やコミュニケーション学等の修士号取得者を中心に、英語ネイティブ教員を積極的に採用、配置する。

なお、本学部の教育を実施する専任教員総数は 14 名で、教授 5 名、准教授 4 名、講師 5 名からなる。また、学位取得者は、博士号 11 名、修士号 3 名であり、78.6%が博士の学位を有している。

(2) 教員配置への配慮

本学部で開講する主要授業科目（GLA 基礎科目、専門教養科目、演習科目）には基本的に教授または准教授を配置することとしているほか、次のとおり授業科目への教員配置に配慮している。

① 英語科目

「英語科目」の中で初年次教育の一環として重要視される「English for Academic Purposes」、「Self-Directed Learning」においては、英語教育を専門とする教授又は准教授の専任教員を配置し、きめ細かい指導を行う。

② GLA 基礎科目

本学部ならではの科目区分として、本学部での学びとキャリアを学生自身が主体的に考え方向づけることを目的とした「GLA 基礎科目」のうち、特に主要な科目として位置づける「グローバル・ディスカバリー I・II」、「キャリアデザイン (GLA)」、「グローバル・キャリア」については、その重要性から学長、学部長、教授が科目を担当する。

③ 専門教養科目

2～4 年次に配当される「Humanities (人間と文化)」、「Societies (社会と共生)」、「Global Studies (グローバル・スタディーズ：地域研究と国際関係)」の 3 領域にわたる「専門教養科目」(24 科目)のうち、13 科目を教授・准教授が担当する。

④ 研究科目

本学部のリベラルアーツ教育を代表する「研究科目」は、「卒業研究」(キャップストーン・プロジェクト)(4 年次)を学びの集大成として位置づけ、「研究演習」I・II・III(2～4 年次)を通してその準備を進めることになるが、その教育研究指導は本学部専任の教授 3 名、准教授 4 名、講師 3 名の計 10 名体制で行う。

(3) 研究体制

本学部では、グローバル時代の教養の養成にふさわしい、「Humanities (人間と文化)」、「Societies (社会と共生)」、「Global Studies (グローバル・スタディーズ)」の 3 分野に、人文学と社会科学の領域を専門とする専任教員を配置し研究教育を推進する。

具体的には、Humanities 分野の担当者として歴史学(1 名)、哲学(1 名)、日本倫理思想(1 名)、宗教学(1 名)の専門家を、Societies 分野の担当者として社会学(2 名)、社会言語学(1 名)の専門家を、Global Studies 分野の担当者として政治学・国際政治学・国際経済学(3 名)、国際法(1 名)の専門家を配置する。

この 3 分野及び学際的な研究を行うための会議体を設け、これら領域における研究活動の促進を図るほか、「専門教育科目」及び「演習科目(講読演習)」の科目調整も行う。

また、学生の研究活動に必要な学術的な日本語基礎力の養成と、海外の大学において学修・研究を行うに足る高度な英語力の養成のために、日本語教育を専門とする専任教員(1 名)と英語教育及び英語言語学を専門とする外国人専任教員(2 名)を配置する。

なお、本学部の専任教員は、教授 5 名、准教授 4 名、講師 5 名からなる。うち、11 名が博士号を、3 名が修士号を取得しており、博士号取得者の割合は 78.6%である。

以上の教員組織の編成の考え方及び特色に基づき、2023 年度の実施状況は以下のとおりとなっている。

(1) 教員配置の状況

年度	配置状況
2020-2021	本学部の教育を実施する専任教員数 14 名（教授 5 名、准教授 4 名、講師 5 名）について、2021 年 3 月に、教授 1 名が就任を辞退したほか、同年 4 月に准教授 1 名が教授に昇任したことにより、2021 年 4 月からは 13 名（教授 5 名、准教授 3 名、講師 5 名）となった。就任を辞退した教授 1 名が担当する授業科目は、当人が兼任教員として担当するため 2021 年度における授業に支障は無かった。
2022	2022 年 4 月から准教授 1 名が教授に昇任、講師 1 名が准教授に昇任し、特任教授 1 名が学内配置換えて、新たに担当となったことにより 14 名（教授 7 名（特任教授 1 名を含む。）、准教授 4 名、講師 3 名）となった。
2023	2023 年 4 月から教授 1 名が交代により 14 名（教授 7 名（特任教授 1 名を含む。）、准教授 4 名、講師 3 名）となった。

(2) 研究体制

Societies の分野、Global Studies 分野及び Humanities 分野とも昨年度から研究体制に変更はなかった。

なお、昨年度に引き続き学科会議としての GLA 運営委員会において、教育研究活動を促進したほか、学部の円滑な運営を図った。

(3) 年齢構成

2023 年 5 月 1 日現在における専任教員の年齢構成は、60 歳以上 3 人、50～59 歳 6 人、40～49 歳 2 人、30～39 歳 3 人であり、完成年度までに定年となる教員はおらず、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。

IV. 学生支援の取組

1. 学習支援の取組について

(1) 学生支援奨学金

本学部では、就学を支援する奨学金として、次のとおり「特待生奨学金」と「成績優秀者奨学金」の2つの奨学金を設けている。

	GLA Freshman Scholarship ＜特待生奨学金＞	GLA Outstanding Scholarship ＜成績優秀者奨学金＞
目的	入学試験の成績優秀者に支給することで、優秀な学生の確保に寄与	入学後、優秀な成績をあげた学生を顕彰
対象要件	一般選抜すべての入試区分において成績上位で合格し、入学した者が対象。	2年次終了時点で成績優秀（GPA3.0以上）な学生で「特待生スカラーシップ」の対象者を除く
対象者数	15名以内	6名以内
奨学金額	最大200万円	100万円
支給時期	3年次（6月頃）	3年次（6月頃）

「特待生奨学金」は、新しい学生に大いに期待すること、また文字通りいきいきと学生生活を送り、グローバル社会に貢献できる人材に育てて欲しいという想いから創設した。3年次後期のニューヨーク州立大学（SUNY）への留学費用相当額（渡航費、授業料、寮費など）を給付する。

【給付実績】

入学年度	給付実績	備考
2021	1名	
2022	8名	2024年度（3年次）に給付
2023	7名	2025年度（3年次）に給付

「成績優秀者奨学金」は、入学後2年間の成績が優秀であることを評価し、さらに今後も努力を続け、グローバル・リベラルアーツ学部においてリーダー的な存在として活躍して欲しい学生へ支給する。

入学年度	給付実績	備考
2021	11名	2025年度（3年次）に給付
2022	6名	2026年度（3年次）に給付

(2) GLA Community の活動について

GLA 学部の学生・教員・職員がフラットに意見交換し、交流及び活動していくプラットフォームとして、昨年度に引き続き GLA Community を運営した。

定期的な活動として、4 月には GLA Community の企画として新入生向けの交流会を実施した。5 月には新入生を交えた全体会を開催して、学生主体で取り組みたい活動の提案や共有をおこなった。毎週金曜日の 5 限に定例会を開催して、学生からの問題提起や情報共有を実施した。また、昨年度から始まった学生提案による Academic Conference は 23 回実施されて、GLA Community の中心的な活動となった。

さらに、GLA Community から生まれたフェアトレード活動が、任意団体 IRIS (アイリス) として独立して本格的な活動を開始し、大学祭 (浜風祭) を含むキャンパス内での販売活動に加えて、千葉ステーションビルや三井アウトレットパーク幕張等の企業及び地域団体からの依頼を受けて、フェアトレード商品の販売をおこなった。また、10 月には千葉市長との意見交換の場に参加し、フェアトレードタウン及びフェアトレード大学の認定に向けた取り組みについて意見を交わした。

2. キャリア支援の取組について

(1) キャリア教育

本学部における教育課程内の取組として、以下 2 つの授業科目、「キャリアデザイン (GLA)」(1 年次後期) と、「グローバル・キャリア」(3 年次前期) を必修科目として開設している。

① 「キャリアデザイン (GLA)」(1 年次後期必修)

本科目は、外部環境 (国際政治、経済、社会、技術革新) や労働環境 (新卒・転職・起業) を理解したうえで、大学進学後の進路 (ゴール) とその道筋 (パス) を考えていくための授業である。グローバルな舞台でグローバル・リベラルアーツ学部での学びを活かすにはどのような仕事があるのか。多国籍の人々が集まる組織ではどのような英語力が求められるのか。外国人と一緒に仕事をするために必要なことは何か。仕事と家庭・子育てをどう両立させるのか。おカネとどう向き合えばいいのか。講義やグループディスカッションを通して「人生 100 年時代」を見据えた仕事と人生について考えるとともに、グローバル人材としての資質も身に付けていく。外国人と英語で仕事をするための準備講座という性格上、授業は英語と日本語を併用する。

② 「グローバル・キャリア」(3 年次前期必修)

本科目では、グローバル化する社会で自分のキャリアを確立し、世界にインパクトを与えているプロフェッショナルたちの事例から、自己流のキャリアを確立するための思考や態度を、講義やグループディスカッションを通じて学んでいく。また、現在の自分と彼等プロフェッショナルとの比較を通じて、自己を客観視する力を身に付

けるとともに、自身が描く卒業後のグローバル・キャリア像に対する課題を抽出し、アクションプランを立てることで、3年次後期の長期海外留学での実践に繋げていく。講義は英語と日本語を併用する。

(2) キャリア形成支援

本学部において養成する人材像は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に次のとおり定めている。

- (1) 多様な学問領域にわたる幅広い教養
- (2) 人間と文化、社会と共生、平和にかかわるグローバルな事象に対する深い理解
- (3) グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力
- (4) 論理的かつ批判的な思考力
- (5) 社会的な課題の発見と解決に貢献する力
- (6) 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

これらの能力を身につけ、現代社会が直面する諸問題を平和的に解決するべく、リーダーシップを発揮して立ち向かうことができる自立した人材を育成する事を目的としている。

本学部におけるキャリア形成支援について、「設置の趣旨等を記載した書類」に「(2) 教育課程外の取組」として次のとおり記載している。

この養成する人材像に基づき、①社会貢献に力を入れて取り組む企業、②国家公務員（外務省など）・非営利団体（JICA や国際交流基金など）及び③国際公務員（国連事務局、国連開発計画など）の3つのキャリア（進路）に対し、効果的に学生を輩出すべく、本学部、キャリア教育センター、そしてキャリア教育委員会の3組織からなる支援体制を構築する【資料16】。

また、「動機付け」、「選択」、「専念」からなる3つのキャリア形成フェーズを設定し、各フェーズにおいて独自のキャリア支援を促すことで、さらに効果的なキャリア支援が可能になるものと考えている【資料17】。

① 第1フェーズ：「動機付け」（入学前から1年次まで）

キャリア・アドバイザーやメンターとの接触を通じ、早期から学生に3つのキャリア領域を意識づける段階である。具体的な取組は以下のとおり。

- ・3つのキャリア形成への意識付けを目的とした「入学前スタートアップセミナー」及び「入学時オリエンテーションキャンプ」（全員参加）
- ・キャリアを見据えた4年間の学修・学生生活をサポートする「担任制度」の導入
- ・社会起業家やCSV（Creating Shared Value: 共通価値の創造）企業、あるいはJICAや政府機関などによる「キャリア講座」、「キャリアセミナー」の実施（全員参加）

② 第2フェーズ：「選択」（2年次）

卒業後のキャリアを具体的に選択する段階。具体的な取組は以下のとおり。

・3つのキャリア領域で活躍している現役社会人などによる「社会人ゼミ」の実施・3つのキャリア領域における「インターンシップ」などの実践機会の提供。

③ 第3フェーズ：「専念」（3年次から4年次）

卒業後のキャリア形成に向けて必要な資質・スキルの取得に集中的に取り組む段階（特に長期留学帰国後の3年次2月～3月の期間を利用する予定）。具体的な取組は以下のとおり。

・履修モデルを参考とした科目履修の推奨

・スキルアップ・キャリア対策講座（「PCスキルアップ講座」、「公務員対策講座」、「在外公館派遣員勉強会」、「大学院進学セミナー」など）の実施

以上のキャリア形成支援計画に基づき、2023年度に計画又は実施した内容は次のとおり。

【担当】キャリア教育部

2023年度における取組内容を記載願います。

(1) 第1フェーズ

3年目の第1フェーズであるが、1、2年目の経験を踏まえ、修正を加えつつ概ね順調に推移している。

第1フェーズの目標達成の為に、以下の取り組みを実施した。

●フレッシュマンオリエンテーションキャンプ

学生が想定している進路のイメージを把握する目的で、ポートフォリオに「キャリア目標」とそれを実現する為の「小目標」の入力を実施した。

●必修科目「キャリアデザイン」の実施（計15回）

「人生100年時代」を見据え、世の中にはどのような仕事があるのかを理解し、自分はどういうキャリアを歩みたいか、それにはどのような準備が必要なのかを考え、学生時代の勉強や課外活動に生かすことを目標とし、GLAの学生にとって魅力ある仕事は何か。大学での学びをどのように活かしたらいいのか。講義やディスカッション、現役社会人（ゲストスピーカー）の話を通して、グローバルな視点で自分の将来について考える事を促す事が出来た。

(2) 第2フェーズ

2年目の第2フェーズでは、1年目と変わらず学生が卒業後のキャリアを具体的に選択し、目標進路に向けて残り2年間の学生生活の行動計画を描くことを到達目標として定めており、以下の取り組みを実施し、概ね順調に推移している。

●GLA キャリア・メンター制度

3つのキャリア領域への進路選択に繋がるよう、制度を整備し、7名の社会人をGLA キャリア・メンターとして招聘した。

学生は月1回のGLA キャリア・メンターとの面談でのアドバイスをもとに具体的な進路

目標を定め、3年次以降の学生生活の過ごし方を明確にするための一助となった。
 但し、上手くメンター制度を利用出来ない学生が居た事、メンターが社会人と言う事で、なかなか面談の設定が出来なかったという課題はあったので、次年度以降は改善が必要となる。また、メンター間での情報共有が出来づらい環境であった事から、月1回の「メンターミーティング」を実施し、改善を図った。
 面談の情報は、教員には担当ゼミ生毎に報告を実施。

●イベント・セミナーの実施

第1、第2フェーズを通じて、目標とするキャリアを達成するための機会として、以下のイベントやセミナーがGLA学部の学生にも通知がされた。

	日程	イベント
1	2023年4月6日	公務員試験対策講座ガイダンス
2	2023年4月10日	2年生対象就職ガイダンス
3	2023年4月10日	GLA Graduation & Start セッション
4	2023年4月12日	寄付講座：キャリア開発U
5	2023年4月19日	トップバリュー
6	2023年4月20日	ASIA インターンシップ説明会
7	2023年4月21日	ASIA インターンシップ説明会
8	2023年4月29日	保護者向けWEBセミナー
9	2023年5月1日	保護者向けWEBセミナー
10	2023年5月8日	編入生親睦会
11	2023年5月15日	現役公務員による国家公務員業務説明会
12	2023年5月15日	TOKYO SUMMER CAREER FORUM 2023 事前説明会
13	2023年6月5日	業界研究WEEK
14	2023年6月6日	業界研究WEEK
15	2023年6月7日	外国語を活かすキャリアレクチャーVol.7
16	2023年6月7日	業界研究WEEK
17	2023年6月8日	業界研究WEEK
18	2023年6月9日	業界研究WEEK
19	2023年7月5日	外国語を活かすキャリアレクチャーVol.8
20	2023年8月31日	三井E&Sシステム技研(株)説明会兼選考会
21	2023年9月21日	【豊田ゼミ主催】内定者相談会
22	2023年10月18日	DEI イベント
23	2023年10月24日	公務員業務説明会(財務省一般職)
24	2023年11月3日	保護者向けWEBセミナー
25	2023年11月4日	保護者向けWEBセミナー

26	2023年11月8日	3年生就活プログラム
27	2023年11月20日	公務員試験合格者座談会
28	2023年11月28日	ANA 成田 AS 空港見学会
29	2023年11月29日	ANA 成田 AS 空港見学会
30	2023年11月30日	3年生就活プログラム
31	2023年12月2日	大学院合同説明会
32	2023年12月4日	内定者との座談会
33	2023年12月7日	メキシコ就職セミナー
34	2023年12月13日	企業説明会
35	2023年12月13日	「日本語教員になるには」セミナー
36	2023年12月20日	内定者との座談会
37	2024年1月11日	低学年向けセミナー
38	2024年1月21日	保護者向け WEB セミナー
39	2024年2月9日	ホテルモントレ個別会社説明会
40	2024年3月7日	個別説明会
41	2024年3月15日	パークハイアット東京個別会社説明会

(3) 第3フェーズ

第3フェーズは、卒業後のキャリア形成に向けて必要な資質・スキルの取得に集中的に取り組む段階として、下記のような取り組みを実施した。

●必修科目「グローバル・キャリア」

本学学長による授業。

グローバル社会でキャリア形成を試みる際に IDENTITY の自覚は一つの出発点になる。この科目で学生が SUNY 留学中に自分たちが世界のマイノリティーであることを自覚しながら IDENTITY を考えそれを英語で表現し、留学先で出会う多様な友人達と議論が出来るようになり、実際の SUNY 留学にも活かされた。

●キャリア教育部職員との面談

本来、3年次の後期に行われている面談であるが、SUNY 留学で不在であるため、前倒して、前期のうちに3年生全員との面談を実施した。

●ゼミ担当教員とキャリア教育部職員との打ち合わせ

本学部は、2年次の後期からゼミが開始されている為、非常にゼミの担当教員と学生の繋がりが強い。このため、よりの確なキャリアサポートの実施の為、教員から見た各学生の

特徴等の確認を実施した。

●SUNY 留学から帰国後、2024 年 1 月 6 日、8 日に 1 日就職セミナー for GLA の実施
実施内容

- ①これからの就職活動の進め方について(GLA 学部での学びをどう活かすか)
- ②就職活動における注意事項
- ③履歴書・エントリーシート対策
- ④面接対策・グループディスカッション対策
- ⑤業界・企業セミナー

●TOEIC の受験

帰国後即の 1 月の公開テストに 28 名が受験した。

V. 管理運営の取組

1. 情報公表の取組について

(1) 情報公開

本学部における情報の公表について、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

本学は、学校教育法第113条及び学校教育法施行規則第172の2第3項の規定に基づき、教育研究に関わる公的な機関として社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育研究活動の質の向上を図り、成果を広く社会に提供し、社会の発展に寄与することであることを認識していることから、積極的にその成果等を公表している。

情報公開の方法は、主として学内外からのアクセス及び最新情報の更新が容易なホームページ上での公表を基本とし、その他対象者に応じて紙媒体等で情報を公表している。

(情報公表一覧) <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/>

なお、ホームページは各ステークホルダー（在学生、受験生、卒業生、保護者、一般・企業の採用担当者、一般市民）に対してコンテンツが分類されており、それぞれのステークホルダーが欲しい情報が容易に参照できる工夫がなされている。本学部においても各々のステークホルダーが求める情報とともに、本学部の教育研究活動にかかる公表事項をホームページ上に掲載することで、適切な情報発信に努める。

以上の情報の公表計画に基づき、本学 Web 上で情報を公開している。

上記以外の 2023 年度における公開状況（学生の声やお知らせなど）は次のとおり。

- ・ 2023 年度 GLA キャリア・メンター制度「Graduation&Start セッション」を実施
2023.4.13
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/262384/>
- ・ GLA 学部の河越真帆准教授の著書『EU 共通航空政策の軌跡と変容——域内市場統合から域外進出へ』が刊行 2023.4.25
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/264984/>
- ・ GLA 学部の鈴木健太講師の著書『ユーゴスラヴィア解体とナショナリズム——セルビアの政治と社会（1987-1992年）』が刊行 2023.4.25
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/265056/>
- ・ NHK スペシャル『Z 世代と”戦争”』に NHK ディレクターのカテリーナさんと GLA 学生らの対話の様子が放送 2023.9.15
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/315127/>
- ・ 次回 12/14(木) 学長講座「ダイバーシティ 女性のキャリア」開講 2023.9.14

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/312863/>

- ・ GLA 学部 of 学生らが国連本部を訪問 2024.1.15

https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/news_category/news_gla/page/2/

- ・ 3/7(木)~14(木) 千葉・リトアニア交流事業「2024 リトアニアウィーク」に協力
2024.2.26

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/353935/>

- ・ GLA 学生ら制作 of 動画作品 日本 WHO 協会 of コンペで優秀賞を受賞 2024.2.26

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/354015/>

- ・ 千葉・リトアニア交流事業「2024 リトアニアウィーク」に 2 名 of 在学生在が参加
2024.3.26

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/356964/>

(2) オープンキャンパス、セミナー等

本学部では、情報公開の一環として、受験生・高校生向けに大学紹介 of オープンキャンパスを開催しています。オープンキャンパスは「オンライン」と「オンキャンパス」 of ハイフレックス型で開催しており、「オンライン説明会」では、自宅にしながら大学 of 概要や入試情報を知ることができ、「オープンキャンパス」では、来校して在学生在と直接話をして、キャンパスライフを体感できます。

3月24日(金)	オンライン説明会	大学概要説明・入試制度説明
3月25日(土)	オープンキャンパス	来校型 of オープンキャンパス
3月26日(日)		
3月28日(火)		
3月29日(水)		
3月30日(木)		
3月28日(火)	集中レッスン	高校生対象 of 授業体験 (ELI 教員による英語レッスンと専任教員による教養講義) 2 日間通しイベント
3月29日(水)		
4月21日(金)	オンライン説明会	大学概要説明・入試制度説明
4月23日(日)	英検対策講座	英検 2 級対策講座
4月29日(土)	オープンキャンパス	来校型 of オープンキャンパス
5月20日(土)	オンライン説明会	大学概要説明・入試制度説明
5月21日(日)	オープンキャンパス	来校型 of オープンキャンパス
5月28日(日)		
6月15日(木)	SDGs ビジョンづくりワークショップ	来校型 of ワークショップ参加型イベント

6月18日(日)	受験対策・進路探究DAY	来校型の受験対策・進路探究イベント
7月8日(土)	オンライン説明会	大学概要説明・入試制度説明
7月9日(日) 7月15日(土) 7月16日(日) 7月22日(土) 7月23日(日) 7月29日(土) 7月30日(日)	オープンキャンパス	来校型のオープンキャンパス
8月1日(月)	オンライン説明会	大学概要説明・入試制度説明
8月2日(水)	授業体験DAY	授業体験・学科説明会
8月3日(木)	オープンキャンパス	来校型のオープンキャンパス
8月5日(土)	受験対策・進路探究DAY	来校型の受験対策・進路探究イベント
8月25日(金) 8月26日(土) 8月27日(日)	オープンキャンパス	来校型のオープンキャンパス
8月25日(金) 8月26日(土)	集中レッスン	高校生対象の授業体験(ELI教員による英語レッスンと専任教員による教養講義・韓国語のコースも用意)2日間通しイベント
9月9日(土)	オンライン説明会	大学概要説明・入試制度説明
9月16日(土)	オープンキャンパス	来校型のオープンキャンパス
10月21日(土) 10月22日(日)	オープンキャンパス	来校型のオープンキャンパス(浜風祭同日開催)
10月21日(土)	オンライン説明会	大学概要説明・入試制度説明
12月9日(土)	オンライン説明会	大学概要説明・入試制度説明
12月10日(日)	受験対策・進路探究DAY	来校型の受験対策・進路探究イベント

2. 教育内容等の改善を図るための取組について

(1) 自己点検・評価

本学における自己点検・評価の取組について、「設置の趣旨等を記載した書類」として次のとおり記載している。

(1) 実施方法など

本学では、学則第1条の2に「本学の教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育活動の状況並びに研究について、自ら点検及び評価を行う」と定めている。2012年以降は、同点検・評価を通して明らかになった改善点を中期経営計画に落とし込み、PDCAサイクルにより、改善・改革に取り組んでいる。

自己点検・評価項目は、「神田外語大学質保証・質向上に関する規則」第5条に次のとおり定めている。

- ・使命、目的及び教育目的
- ・キャリア支援
- ・教育課程
- ・学生支援
- ・学生の受入れ
- ・施設・設備及び環境
- ・教育研究組織及び教職員
- ・管理運営
- ・内部質保証
- ・前各号に掲げるもののほか、質保証・質向上委員会が適当と判断する重要事項

(2) 実施体制

学内に、自己点検・評価の実施並びにその結果の活用及び公表に関する業務を統轄する質保証・質向上委員会を設置している。教職員一体となった全学的な取組を担保するため、同委員会の構成員は、副学長、学部長、研究科長、附属図書館長、各学科の主任、教養教育運営部会長、各分野長、教務委員長、事務局長、大学改革室長及び学長が指名した者となっている【資料12】。

(3) 第三者評価

本学は、2005年度及び2012年度に引き続き、2019年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による第3回目の認証評価（第三者評価）を受審し、同機構が定める大学評価基準に「適合」しているとの評価を得ている。実施にあたっては、自己点検・評価同様に、質保証・質向上委員会が行い、その事務は総務部で行うこととしている。

以上の自己点検・評価の取組に基づき、本学部では、7年に一度実施する外国語学部を含めた全学の自己点検及び第三者評価（実施は質保証・質向上委員会）の取組とは別に、設置前年度（2020年度）から完成年度（2025年度）までの5年度にわたり、以下の自己点検・評価項目に基づき、各年で実施することとした。

2022年度自己点検・評価は2022年4月から8月にかけて大学改革室及びGLA学部

運営委員会が行ない、本報告書を大学ホームページで公開することとした。

- I. 理念・目的
- II. 学生受入れ（入学者選抜）の取組
- III. 教育課程編成の取組
- IV. 学生支援の取組
- V. 管理運営の取組

(2) FD 委員会

本学における教育内容等の改善を図るための組織的な取組みについて、「設置の趣旨等を記載した書類」にとして次のとおり記載している。

本学では、「神田外語大学プロフェッショナル・ディベロップメント委員会規則」に基づき、「プロフェッショナル・ディベロップメント委員会」を設置し、PD(Professional Development)活動の組織的な実施に努めている（本学では、FDをPDと称す）【資料13】。同委員会は、副学長3人（うち1人が委員長）、各学科主任、各研究分野長（言語研究分野・総合文化研究分野・コミュニケーション研究分野・地域国際研究分野）、教務学監、大学院研究科長、ELIディレクター、SALCディレクター、PDワーキンググループメンバー6人（ELI所属教員を含む）、関連部署の職員で構成されている。2020年度PD委員会は、最低4回の開催を予定しており、PDワーキンググループは定期的にメンバーを招集し、PDの企画・調整を行う予定である【資料14】。本学部のPD活動は、学部長（兼副学長）が中心となり、全学的な取組としてのPD及び本学部独自のPDを推進する計画である。特に本学部が目指すアクティブ・ラーニングによる授業、及び感染症拡大の影響によるオンラインでの効果的な授業手法について、今年度から専任・兼任教員を対象にPDを行う計画である。またこれまで外国語学部（全学）を対象とした以下のPD活動についても、PD委員会が運営のもと、本学部でも実施する。

(1) 学生による授業評価アンケートの実施と授業改善

「教務委員会」が中心となり、各学期末に、基本的に全開講科目を対象として、学生に「授業評価アンケート」を実施している（教育の質保証への学生の参画）。同結果は各担当教員にフィードバックし、各授業の有効性を検証するとともに、当該検証結果を踏まえて恒常的・継続的な授業改善を行っている。

(2) 教職員による授業参観

再任審査対象（テニュアトラック）の教員、特任教員、語学専任講師、留学生別科教員及び新任の全非常勤講師を対象として授業参観を行っている。当該授業科目を管理する教学組織（学科、専攻、「研究分野会議」、「教養教育運営部会」等）の教員が、複数名で授業参観を実施し、その結果をフィードバックして授業改善に役立てている。また、2012年度からは職員による授業参観も行っており、終了後は、改善や工夫に資するべく、担当教員にオブザーションレポートを提出している。

(3) PD講演会

言語教育研究所が主催する「Bag Lunch Seminar」は、PD講演会の一環として行われており、開学以来、延べ200回近い開催実績がある。このセミナーの発表者は学内の教員が中心であるが、ELIコンサルタントを含む外部講師による発表も行われ、研究成果が共有されており、本学部の根幹を担う高度な言語教育を提供するうえで、教員同士の学び合いの場となっている。このほか、きめ細やかな学生支援に欠かせないメンタルヘルスに関わる基礎知識やカウンセリング手法を学ぶ研修会（メディカルセンター主催）や、研究資金を獲得するう

えて欠かせない研究力の向上に資するセミナー（学術・研究支援部主催）などを実施している。

(4) 奉職時（入職時）研修会

本学教育職員としてのキャリアを円滑にスタートできるように、専任の新任教員（参加義務）及び非常勤教員（任意）を対象に、理事長・学長の講話、テニユアになった教員による対談及び事務局説明を行う。また、1月下旬を目途に、着任後に生じた課題等についてテニユア教員と対話ができるフォローアップ研修会を実施する予定である。

以上の教育内容等の改善を図るための組織的な取組みに基づき、2023年度におけるFD委員会の取組は以下のとおりである。

① 実施体制

a. 委員会の設置状況

全学委員会として、神田外語大学ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置。

b. 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

委員会は、副学長、研究科長、学部長、各学科長及び各専攻長、教務委員長、教養教育運営部会長、教育研究に関わる学内附属機関所属教員のうちから学長が指名した者、事務局長及び学長室ゼネラルマネージャー、その他学長が指名した教職員により構成され、年5回開催。

c. 委員会の審議事項等

委員会の審議事項は、FDに関する研究・企画運営、情報収集及び教育機関との連携、活動の評価及び報告に関することとしている。

② 実施状況

a. 実施内容

ア 学生による授業評価アンケートの実施と授業改善

イ 教職員による授業参観・授業見学

ウ FD講演会

エ 入職時研修会

b. 実施方法

ア ③に記載

イ 再任審査対象（テニユアトラック）の教員、特任教員、語学専任講師、留学生別科教員及び新任の全非常勤講師を対象として授業参観を行っている。また授業見学として、教職員が他の教員の授業を見学し、お互いから学び合うFD・SDも実施。

ウ 授業のグッドプラクティス（事例紹介）や授業実践に係るセミナーが中心となる。

エ 専任の新任教員（参加義務）を対象としている。

c. 開催状況（教員の参加状況含む）

ア ③に記載

イ 授業参観については、対象者21名に実施。授業見学については、授業公開教員数18名、公開科目数33科目、見学者数は延べ112名。

ウ インストラクショナルデザインに関するFDセミナーを2023年11月1日実施。

90名の教職員が参加。

また、授業実践事例やFD関連情報を共有するためのサイト（Google Classroom）を設けており、170名の教職員が登録している。

エ 5名の新任専任教員に対し、理事長・学長の講話、テニユアになった教員による本学における授業実践やTipsについての講義、参加者同士での懇談及び事務局説明、学内の施設

見学を実施。また、事務局からの案内事項をオンデマンドコンテンツとして事前に共有。それらは既存の教員（専任・非常勤）にも公開されている。

d. 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

ア アンケート結果を各担当教員にフィードバックすることにより、各授業の有効性を検証するとともに、当該検証結果を踏まえて恒常的・継続的な授業改善を行っている。

イ 教員による授業参観は、その結果をフィードバックし、対象教員はリフレクションシートを提出することで授業改善に役立っているほか、教職員による授業見学終了後は、改善や工夫に資するべく、担当教員にオブザーベーションレポートを提出している。

ウ 授業評価アンケートを、より授業改善に役立てやすい内容に刷新したことに伴い、学習者本位の教育とシラバスの重要性を改めて認識し自身の授業とシラバスの書き方を見直す機会とすべく、授業評価アンケートの活用方法をFD委員が解説したほか、FD活動の盛んな他大学の教員を招聘し講演会を行った。

エ 本学教育職員としてのキャリアの円滑なスタートに資している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a. 実施の有無及び実施時期

FD委員会の協力の下、「教務委員会」が中心となり、各学期末に全開講科目を対象として、「授業評価アンケート」を実施。

b. 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果は、大学ホームページを通じて学生・一般に公開を行っている。

また、各担当教員にフィードバックし、各授業の有効性を検証している。

加えて、各担当教員はアンケート結果に対するフィードバックを行っており、その内容は学生に共有されている。

3. 管理・運営体制について

本学部の管理・運営体制については、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

本学部においては、上記の各種委員会のうち、教学の重要事項を審議する学務審議会の構成員となるが、学部の特異性と学生数を踏まえ、外国語学部と共通の全学委員会（例えば、「学生委員会」、「キャリア教育委員会」、「プロフェッショナル・ディベロップメント委員会」、「入学試験委員会」等）と学部独自で運営するもの（例えば、「教務委員会」、「国際交流委員会」等）とで構成する計画である。

2021年4月GLA学部設置に伴い、新たにグローバル・リベラルアーツ学部教授会（以下「教授会」という。）及びグローバル・リベラルアーツ学部運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置き、原則毎月第1週水曜日に開催される運営委員会において学部の管理・運営に関わる事項を審議し、当該事項は、入試、教務、教養教育など外国語学部と共通の委員会に報告のうえ、外国語学部との合同教授会において審議又は報告した。

神田外語大学学部教授会規則（抜粋）

第1条 この規則は、神田外語大学学則第39条第2項の規定に基づき、外国語学部及びグローバル・リベラルアーツ学部の教授会（以下「学部教授会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

第2条 第2条 学部教授会は、各学部の専任教授、准教授及び講師をもって組織する。

2 前項の講師は、満56歳に達する年度以降については、学部教授会の構成員とはならない。

（合同開催）

第5条 学部教授会は両学部による合同で開催することができる。

2 前項により開催する場合に必要な事項は別に定める。

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部運営委員会規則（抜粋）

（設置）

第1条 グローバル・リベラルアーツ学部（以下「本学部」という。）に、本学部教授会が必要と定めるものを審議し、学部の円滑な運営を図るため、グローバル・リベラルアーツ学部運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（組織）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 本学部長
- (2) グローバル・リベラルアーツ学科長
- (3) 本学部に所属する専任教員

- (4) 教務部ゼネラルマネージャー
 - (5) 大学改革室長
 - (6) 本学部長が指名した教職員
- (審議事項)

第5条 委員会は、本学部の次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程、授業その他の教務に関する事
- (2) 学力試験の実施・実施方法その他の入学者選抜に関する事
- (3) 学生の海外研修・留学その他の国際交流に関する事
- (4) 学生の厚生、課外活動その他の学生生活一般に関する事
- (5) 学生のキャリア教育、卒業相談その他の卒業後の進路に関する事
- (6) その他本学部教授会が必要と定める事

(1) 運営委員会における審議・報告事項

開催日	回数	報告・審議事項
2023年4月12日	第1回	<p>審議事項</p> <p>1. 2024年度入学者選抜について</p> <p>1) 総合型選抜(10月選考) 選抜要項</p> <p>2) 学校推薦型選抜(11月選考・12月選考) 選抜要項</p> <p>3) 募集人員(案)</p> <p>資料告事項</p> <p>1. 2023年度 GLA 学部・学科について</p> <p>2. 委員会報告</p> <p>3. 1年生スタディ・ツアー・3年生 SUNY 各校への留学調整状況</p> <p>4. 休退学等 GLA の学籍情報について</p> <p>5. GLA 学科新入生 Freshman Orientation Camp について</p> <p>6. 土曜日の ASC の講座について</p> <p>確認事項</p> <p>1. 教務関連</p> <p>演習科目の欠席ルールの運用について</p> <p>GLA 卒業研究ガイドについてのお願いごと</p> <p>2023年度研究演習 I の選抜方法および志望動機書の内容について</p>
2023年5月10日	第2回	審議事項

		<p>1. 2024 年度入試</p> <p>1) 指定校の見直しと新規選定について</p> <p>2) 総合型（11 月）／海外経験（11 月）のプレゼンテーションテーマについて</p> <p>3) 総合型／海外経験プレゼンテーション時間の評価について</p> <p>2. 3 年生のアメリカ大使館での面接にかかわる欠席の取り扱いについて</p> <p>3. SUNY での履修クラス数と取得単位について</p> <p>報告事項</p> <p>1. 委員会報告</p> <p>2024 年度入試日程</p> <p>2025 年度入試（一般・共通テスト利用）教育課程改訂に伴う経過措置</p> <p>2. 1 年生スタディ・ツアー・3 年生 SUNY 各校への留学調整状況</p> <p>3. 初年次アドバイザー 学生面談日程</p> <p>4. ACP 等必修科目再履修者への対応問題の現状共有</p> <p>5. 3 年前期在学後期休学という事例に関する情報共有</p> <p>6. 新年度開始直前・直後のゼミ移動についての現状共有</p> <p>7. 図書館の指定図書についてのアンケートのお知らせ</p> <p>確認事項</p> <p>1. 教務関連</p> <p>GLA 卒業研究ガイドについてのごと</p> <p>2023 年度研究演習 I の選抜方法および志望動機書の内容について</p> <p>その他</p> <p>数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度について</p> <p>1 年生の ASC 土曜講座参加について</p> <p>GCI 第 70 回講演会のお知らせ</p>
--	--	--

2023年6月7日	第3回	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「神田外語大学の数理・データサイエンス・AI教育と文科省認定プログラム制度」について 2. 2024年度入試（11月・12月）選抜要項記載内容等について 3. 指定校推薦（暫定枠）の設定について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会報告 <ol style="list-style-type: none"> ①授業評価アンケートについて ②学生名簿の管理について ③科目新設申請書類の形式変更について 2. 2023年度BH研修またはスタディ・ツアー先のプログラムや引率責任者について 3. 初年次アドバイザー 学生面談結果について 4. 休退学等GLAの学籍情報について 5. 実践女子学園との大学間連携について <p>確認事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教務関連 <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究演習I 6月説明会及び選抜プロセスについて 2) 研究演習III 選抜プロセスについて <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタディ・ツアー成果発表会」：7/24（月）3・4限のACP授業の際に行う予定 2. 研究演習II（ゼミ）交流会について
2023年7月5日（水）	第4回	<p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会報告 初年次アドバイザー BH研修後の面談結果 2. 教務関連 <ul style="list-style-type: none"> ・退学者承認の報告 ・学籍休退学情報の共有のしかた 3. 国際戦略部関連案件 <ul style="list-style-type: none"> ・海外スタディ・ツアー実施状況 ・SUNY留学手続き状況進捗

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年度 FOC の実施形態 ・ その他 <p>4. その他</p> <p>7/16 名古屋大学とのゼミ交流会 [研究演習Ⅱ-6]</p> <p>確認事項</p> <p>1. 教務関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究演習Ⅰの先生方の「選抜」の締め切り日 ・ 研究演習Ⅲの事前アナウンスおよび流れについて ・ 卒研ガイドの作成の見通し
2023 年 7 月 31 日	臨時	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3 年後期に SUNY 留学をしない可能性がある学生への対応 2. 小舘先生の休職にともなう後期の EAP 担当人事 <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 休退学等 GLA の学籍情報 <p>※資料は、会議内で画面上に投影します</p> <p>確認事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教務関連(研究演習Ⅰ 選抜結果) 2. SUNY 留学前の 2 年生の TOEFL スコア提出締め切り日について
2023 年 9 月 13 日	第 5 回	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3 年後期に SUNY 留学をしない可能性がある学生への対応 <ol style="list-style-type: none"> 1) 経済的理由を認めるべきかどうか 2) 認める場合の代替措置について 2. Outstanding 奨学金受給者の決定時期について 3. 2024 年度英語関連科目担当者の人員補充について 4. 2024 年度の授業「人間と文学」「社会と多様性Ⅰ」、「地域とグローバル世界Ⅰ」の担当者について 5. 「ACP (GLA)」科目再履修の代替措置 (外国語科目「ACP」の受講) について 6. 学校推薦型選抜公募学校推薦での英検 CSE スコア条件の扱いについて

		<p>7. 2024 年度 KUIS 学年暦報告と再審 Z</p> <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小舘先生の担当クラス (EAP Class I) のアドバイザーについて 2. SUNY からの訪問者 (Geneseo) と SUNY 出張について 3. シンバイオシス大学 (インド) からの来校予定 4. 海外スタディ・ツアーのアンケート結果について 5. 学籍異動 (休学・退学者) について 6. 授業評価アンケートフィードバックをお忘れなく <p>確認事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教務関連：研究演習 I 選抜結果 <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フルブライトプログラム 2024 年度米国人講師招聘について
2023 年 10 月 11 日	第 6 回	<p>入試判定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10 月総合型入試判定についての審議 <p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3 年後期に SUNY 留学をしない可能性がある学生への対応 2. 【入試案件】外国にルーツを持つ生徒の受け入れについて 3. 【ASC より検討依頼】入学前課題の見直しについて (河越) <ol style="list-style-type: none"> ① 全学科・専攻共通で、課題図書の本数を 2 冊/5 週間とすることをご承認いただきたい。 ② 課題推薦図書は、1 冊 1,000 円前後の図書を推薦していただきたい。 ③ 課題推薦図書は、各学科・専攻 10 冊以内で選定していただきたい。 ④ GLA においても、2024 年は全学科・専攻統一の課題として「新聞スクラップ」を取り入れさせていただきたい。

		<p>4. 2024 年度のアドバイザーについて</p> <p>5. 2025 年度以降 GLA カリキュラム改訂のためのワーキンググループ立ち上げについて</p> <p>6. 2024 年度の授業「人間と文学」「社会と多様性 I」の担当者公募について</p> <p>7. 2024 年度「デジタルメディアと社会」「言語・文化とコミュニケーション」「講読演習 (GS) 地域とグローバル世界」の開講等について</p> <p>報告事項</p> <p>1. イスラエル情勢を踏まえた今後の対応について</p> <p>2. FD ワークショップ (10/19) について</p> <p>3. GLA Commons での AI-Chatbot の設置について</p> <p>4. 2024 年度英語関連科目担当者の公募の進捗状況について</p> <p>5. 3 年次前期「グローバル・キャリア」科目の担当者変更について</p> <p>6. 保護者会について</p> <p>7. 学籍異動について</p> <p>8. 学年暦について</p> <p>その他</p> <p>1. 一部科目の人数制限の導入検討とシラバスへの明記 (人数制限、選抜、初回出席義務など) につきご意見伺い</p>
2023 年 11 月 2 日	第 7 回	<p>審議事項</p> <p>1. カリキュラム改定の目標</p> <p>(1) 学生の選択肢を増やす</p> <p>(2) カリキュラムに柔軟性を持たせる</p> <p>2. カリキュラム改定の大まかな方針について</p> <p>(1) 3 つのポリシー (特にカリキュラムポリシー) との整合性</p> <p>(2) 卒業までに必要な単位 (129) について</p> <p>(3) 2 回の留学の原則</p> <p>(4) 自由選択科目の設置</p> <p>(5) 進級基準</p>

	<p>(6)外国語学部と GLA 学部の共通科目について</p> <p>3. カリキュラム改定のロードマップ</p> <p>(1)大まかな学部のデザイン</p> <p>(2)その他詳細な項目について</p> <p>(3)各 Working Group (WG1～3)の体制</p> <p>4. 2024 年度入試</p> <p>(1)学校推薦型入試（11月/12月）面接の評価項目</p> <p>(2)一般入試（2月/3月）面接の評価項目</p> <p>5.研究演習Ⅱの選抜方法について</p> <p>(1)現2年の選抜方法</p> <p>(2)Ⅰ・Ⅱ再履修者のゼミ移動の可否</p> <p>(3)3年次復学予定者の選抜「時期」と方法</p> <p>6. GLA学科から外国語学部への転部条件緩和について</p> <p>7. 入学前教育オリエンテーション動画（ASC）作成について</p> <p>8. 2024 年度英語関連科目担当者の公募の進捗状況について</p> <p>9. その他</p> <p>報告事項</p> <p>1. 留学説明会（10/21）について</p> <p>2. 学生アンケートの実施について</p> <p>3. 保護者会（10/28）について</p> <p>4. 学生の情報共有</p> <p>5. NHK（新潟放送局記者）による GLA 撮影について</p> <p>6. ACP 代替履修承認</p> <p>確認事項</p> <p>1. 研究演習Ⅲ選抜方法アンケートのお願い</p> <p>2. 卒業研究ガイド更新版確認のお願い</p> <p>3. 2024 年度時間割・研究演習Ⅲシラバス確認メットについて</p> <p>その他</p> <p>1. FD 後、教務部より返答あり（電子提出の具体的方</p>
--	---

		<p>法の確定依頼、卒研発表会の運営)</p> <p>2. 11月のSUNY各大学訪問について</p> <p>3. 2023年度の防災訓練(12/7木・昼)について</p> <p>4. 2023GLA合同ゼミ発表会&懇親会(研究演習I)</p>
2023年11月29日	第8回	<p><入試判定></p> <p>1. 11月入試判定についての審議</p> <p><その他の審議事項></p> <p>1. カリキュラム改定WG3</p> <p>1) SUNYに留学に行けない学生の現状と対応策について</p> <p>2) SUNY 留学の代替措置としての Community College について</p> <p>3) SUNY 留学を延長するケースへの対応について</p> <p>2. カリキュラム改定WG1</p> <p>1) 「アカデミック日本語」の科目の位置づけ</p> <p>2) GLA 英語科目における学修の目標</p> <p>3. カリキュラム改定WG2</p> <p>1) 11月ミーティング報告</p> <p>2) 今後の「GLA 入門」の体制についてのご相談</p> <p>4. 2024年度の授業「人間と文学」「社会と多様性I」の担当者公募について</p> <p>5. 2024年度「社会とサステナビリティ」(講義および講読)について</p> <p>6. 4年次必修科目(研究演習Ⅲおよびキャップストーン)の継続履修について</p> <p>報告事項</p> <p>1. SUNY 視察報告</p> <p>2. 学生アドバイジング関連</p> <p>3. GLA2年生・3年生(休学中)の英語スコア到達状況について</p> <p>4. ACP 代替履修教務委員会で承認、時間割仮確定御礼、先々のシラバス作成のお願い</p> <p>確認事項</p> <p>1. 研究演習Ⅲの選抜方法アンケート、卒研ガイドご</p>

		確認のお願い
2023年12月10日	第9回	<p>入試判定</p> <p>1. 12月入試判定についての審議</p> <p>審議事項</p> <p>1. WG3 関連</p> <p>1) SUNY 留学に行けない学生について</p> <p>2) SUNY 留学の代替措置としての本学での履修科目について</p> <p>3) 海外 ST の訪問先追加について</p> <p>4) SUNY 交換枠 (new Paltz / Oswego) 候補学生の選抜について</p> <p>2. WG1</p> <p>・進級要件:「3年進級時に、英語必修単位中7割以上修得」</p> <p>・その他、議事内容報告</p> <p>3. WG2</p> <p>・基礎科目(グローバル・ヒストリー、キャリア関連科目)について</p> <p>・その他</p> <p>4. 2024年度担当者不在の科目について</p> <p>5. 学生アドバイジングについて</p> <p>6. 教学アセスメントに関する提供データ・報告フォーマットの検討</p> <p>7. 【産官学・地域連携部より打診】千葉県国際交流センター主催の駐日リトアニア大使講演会(3/14, テクノガーデン幕張)との連携について</p> <p>報告事項</p> <p>1. GLA 人事関連</p> <p>2. 2024年前期 ASC 土曜英語基礎講座について</p> <p>3. 教務委員会報告(研究演習 III 継続履修承認、退学者承認)</p> <p>4. 2024年度 FOC の日程(4/4~4/5)について</p> <p>5. 外国語学部演習科目運営部会より情報共有</p> <p>6. GLA 卒業研究ガイドについて</p> <p>7. 学生アドバイジングについて</p>

		<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GLA 合同ゼミ会（交流・発表）
2024年1月10日	第10回	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. WG3 関連 <ol style="list-style-type: none"> 1) SUNY 留学に行けない学生について 2) SUNY 留学の代替措置としての本学での履修科目について 3) 2025 年度国連ユースプログラムの導入について 4) SUNY Global Engagement Program (New Paltz) について 5) SUNY 取得単位換算について 2. WG 1 <p>審議事項なし</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. WG2 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎科目 (GLA 入門)、研究演習 III、選択外国語について 4. 2024 年度担当者不在の科目について 5. 教学アセスメントに関する提供データ・報告フォーマットの検討 6. 【産官学・地域連携部より打診】千葉県国際交流センター主催の駐日リトアニア大使講演会 (3/14 テクノガーデン幕張) との連携について 7. SUNY Oswego との学術交流について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度 FOC について <p>確認事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度オープンキャンパス (オンライン GLA 学部説明会) の開催について 2. 入学前教育 GC に入る教員について <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GLA 合同ゼミ会（交流・発表）研究演習 I
2024年2月9日	第11回	<p>入試判定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GLA 入試判定

		<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. WG3 関連 <ol style="list-style-type: none"> 1) SUNY 留学に行けない学生について 2) SUNY 留学に行けない学生の代替措置について 3) 2025 年度国連ユースプログラムの導入について 4) SUNY Global Engagement Program (New Paltz) について 2. 外国語学部に開放を要請する科目群について 3. WG2 <ul style="list-style-type: none"> ・GLA 入門 I,II について (コーディネーターの役割、形式、内容等) 4. 2024 年度担当者不在の科目について 5. 【産官学・地域連携部より打診】千葉県国際交流センター主催の駐日リトアニア大使講演会 (3/14 テクノガーデン幕張) との連携について 6. 2024 年度 FOC について 7. ASC 開催の 2024 年度前期土曜英語基礎講座 (1 年生) の対象者について 8. ASC 実施の 2024 年度 GLA 学部生対象 GPS アカデミック試験の実施について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生委員会報告 2. 2024 年度の放送大学科目の単位認定について 3. 教務委員会報告 4. 2025 年度人事案 5. GLA Community による新入生交流会 6. 研究演習 II 及び III 希望調査について <p>確認事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 進級基準案 2. GLA 入試条件の再検討について <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改訂について
--	--	--

2024年3月4日	第12回	<p><審議事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 海外スタディ・ツアーの実施時期について 2. 2025年度以降に進級基準を設けること自体の可否について 3. 2024年度人事（非常勤講師） 4. 2025年度科目開講方針について 5. ASC開催の2024年度前期土曜英語基礎講座（1年生）の対象者について 6. (FD委員会) 2024年度 Informal Class Visit（授業見学会）について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教務委員会報告について 2. GLA再入学試験結果について 3. 2024年度GLA3年生のキャリアサポートについて 4. 2025年度人事計画修正について <p>確認事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度委員会メンバーについて
2024年3月5日	臨時	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 【教務案件】2025年度科目開講方針について 2. WG1 <ol style="list-style-type: none"> ①英語科目「必修」（23単位）および「選択必修」（6単位）の単位数確定について ②英語科目「選択」の導入について ③「アカデミック日本語」の開講時期変更と名称変更について ④「科目群」の開放の可否、および今後の方針について ⑤2025年度以降の進級基準について 3. WG2 <ul style="list-style-type: none"> ・GLA基礎科目について 4. WG3 関連 <ul style="list-style-type: none"> ・「グローバル・ディスカバリー」と「ACP (GLA)」との連携について ・海外STの開催時期について

		<p>5. 【学生支援部より】GLA Outstanding student Scholarship（1・2年次成績優秀者特別奨学金）の選抜について</p> <p>6. ASC 開催の2024年度前期土曜英語基礎講座（1年生）の対象者について</p> <p>7. (FD委員会) 2024年度 Informal Class Visit（授業見学会）について</p> <p>報告事項</p> <p>1. 2024年度保護者会(4/1)参加メンバー（教員）について</p> <p>2. 2024年度各種ガイダンスについて</p> <p>3. 教務委員会報告</p> <p>その他</p> <p>・カリキュラム改訂について</p>
--	--	--

(2) 教授会における審議・報告事項

開催日	回数	報告・審議事項
2023年4月26日	2022年度 第13回	<p>報告事項</p> <p>1)委員会報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>2)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>審議事項</p> <p>1)2022年度第3回卒業判定および各課程修了者について</p> <p>2)2022年度第2回進級判定について</p>
2023年6月28日	第1回	<p>報告事項</p> <p>1)委員会報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>2)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p>
2023年7月26日	第2回	<p>報告事項</p> <p>1)名誉教授称号授与報告</p> <p>2)委員会報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>3)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>審議事項</p> <p>1)本学の数理・データサイエンス・AI教育と文科省</p>

		<p>認定プログラム制度について 標記について資料に基づき説明があり、審議の結果、承認。</p> <p>人事案件 ・外国語学部の教員新規任用について</p>
2023年9月13日	第3回	<p>報告事項 1)委員会報告(口頭による補足説明事項) 2)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>人事案件 ・外国語学部の教員新規任用について</p>
2023年9月27日	第4回	<p>報告事項 1)委員会報告(口頭による補足説明事項) 2)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>審議事項 ・2023年度9月卒業判定について</p> <p>人事案件 ・外国語学部の教員新規任用について ・2023年度後期 グローバル・リベラルアーツ学科 科目の新規担当者について</p>
2023年10月25日	第5回	<p>報告事項 1)委員会報告(口頭による補足説明事項) 2)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>審議事項 ・2023年度9月卒業判定について(追加卒業)</p> <p>人事案件 ・外国語学部の教員新規任用について</p>
2023年11月29日	第6回	<p>報告事項 1)委員会報告(口頭による補足説明事項) 2)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>審議事項</p>

		<p>1)2024 年度入試判定について 総合型選抜(10 月選考)</p> <p>2)2024 年度学年暦について</p> <p>3)2024 年度授業形態について</p> <p>人事案件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語学部の教員新規任用について
2023 年 12 月 20 日	第 7 回	<p>報告事項</p> <p>1)委員会報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>2)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度入試判定について(11 月選考) <p>人事案件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語学部の教員新規任用と移籍人事について
2024 年 1 月 24 日	第 8 回	<p>報告事項</p> <p>1)委員会報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>2)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度入試判定について(12 月選考) <p>人事案件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語学部の教員新規任用と昇任について ・グローバル・リベラルアーツ学部の教員新規任用と昇任について
2024 年 2 月 9 日	第 9 回	<p>報告事項</p> <p>1)委員会報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>2)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>審議事項</p> <p>1)2025 年度以降の外国語学部・GLA 学部科目開講方針(科目開講ルール)の策定(案)について</p> <p>2)大学院日本語専攻の見直しについて</p> <p>人事案件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語学部の教員新規任用と昇任について

		・グローバル・リベラルアーツ学部の教員新規任用について
2024年2月14日	第10回	報告事項 1)委員会報告(口頭による補足説明事項) 2)事務局報告(口頭による補足説明事項) 審議事項 ・2024年度入学者の選考について 人事案件 ・外国語学部の教員新規任用と昇任について
2024年3月4日	第11回	報告事項 1)委員会報告(口頭による補足説明事項) 2)事務局報告(口頭による補足説明事項) 審議事項 ・2023年度第1回卒業判定および各課程修了者について 人事案件 ・グローバル・リベラルアーツ学部の教員新規任用について ・外国語学部の教員昇任について
2024年3月12日	第12回	報告事項 1)委員会報告(口頭による補足説明事項) 2)事務局報告(口頭による補足説明事項) 審議事項 1)2024年度入学者の選考について 2)2023年度第2回卒業判定および各課程修了者について 3)2023年度第1回進級判定について 4)2024年度再入学試験結果について 人事案件 ・外国語学部の教員新規任用について

4. 施設・設備について

本学部設置に伴う研究室・教室等の施設・設備については、「設置の趣旨等を記載した書類」の「(2) 校舎等施設の整備計画」に次のとおり記載している。

教室の確保については、本学部新設に伴う定員増は行わないことから、2019年度における教室数に対する曜日・時限ごとの教室使用状況により、新学部稼働後も充足すると見込んでいる【資料6】。このことから、校舎の新築は行わず既存校舎（3号棟）の改修によって、本学部のため、60人の教室1室と30人の教室2室を確保する。また、一部使用が集中する状況にある曜日・時限については、教員の協力を得て調整を行うなど改善を図っていく。

3号棟の一部改修により、新任教員の研究室、及び共同研究室を新たに設置することで、教室のほか、学部所属の専任教員に対する研究室及びそれをサポートする事務体制も十分確保できると考えている。

また、国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とする本学は、コミュニケーション能力、問題解決力の養成にも力を入れており、2003年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されたSACLAを発展させたSALC(Self-Access Learning Center)、ELI(English Learning Institute)等の本学が先進的と自負する自立学習施設を整備し日夜充実に取り組んでいる。同時にこれらの能力育成に資するため少人数教室においても、学生用にアクティブ・ラーニングに適する可動型の机椅子の導入を進めている。

(1) 教室等の整備・充実

「自ら体験し」、「問いを立て」、「自ら学び」、「仮説を立て」検証して行く、と言う生涯の学びのサイクルを実践するための学習施設として設置した「GLA Commons」「GLA Studio」では、様々な利用形態による授業や課外活動において活用された。

なお、利用にあたって次のとおり周知している。

GLA Commons・GLA Studio 利用方法について

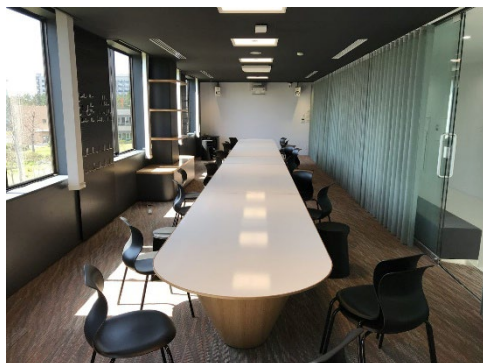
◆GLA Commons◆





- ペットボトルやキャップ付の飲み物等を除き、飲食禁止です。ただし、昼休みの時間帯は飲食可能です。
- GLA Commons の利用時間
他の教室の使用方に準じますが、20:00 には完全撤収してください。
- GLA Commons の予約及び機器利用は、公認団体のみすることができます。
(一般学生、非公認団体はできません)
- 授業中の GLA Commons 内への入室について
対面授業時 : 授業を受講する学生以外は入室不可。
オンライン授業時: 静かに利用をすることを条件に GLA 及び他学部生の入室可。
ただし、事情により、退室をお願いすることがあります。
- GLA Commons 内設置の学生用プリンターについて
授業中の使用可。ただし、授業に支障がある場合は使用中止をお願いすることがあります。
- Commons 内掲示板について
GLA Office で管理していますので、掲示希望の場合は申し出てください。

◆GLA Studio◆



- ペットボトルやキャップ付の飲み物等を除き、飲食禁止です。ただし、昼休みの時間帯は飲食可能です。
- GLA Commons の予約及び機器利用は、公認団体のみすることができます。(一般学生、非公認団体はできません)

また、本学部の学生に向けて、「2023 年度学生便覧グローバル・リベラルアーツ学部」において次のとおり案内している。

X GLA Commons について

3号館2階に、本学部における教育・学習の中心的な場所として、GLA Commons (3-250) を設置しています。オープンスペースとしても、カーテンの仕切りで区切っても使える空間で、授業だけではなく自習やグループワークなど様々な形態で活用できます。日々の空間内の区分けについては、GLA Commons 前に掲示します。利用にあたっては、GLA Commons 内共同研究室 (GLA Office) の職員の指示に従ってください。

<GLA Commons の特徴>

- ・オープンな空間の中に様々な特徴的な場所が存在し、目的に応じて活用できます。
- ・可変性の高い空間で、よりアクティブな使い方ができます。
- ・授業の場であり、学生の日常の居場所でもあります。
- ・Commons のコンセプトを理解した本学の学生・教職員であれば、誰でも使うことができます。

<GLA Commons のコンセプト>

●ACTIVE

- ・アクティブ・ラーニングにふさわしい空間
- ・従来の受動的な教育・学習ではなく、能動的に考え、行動することを促す空間
- ・新たな課題や問題に対して、よりアクティブにチャレンジしていく姿勢が身につく空間

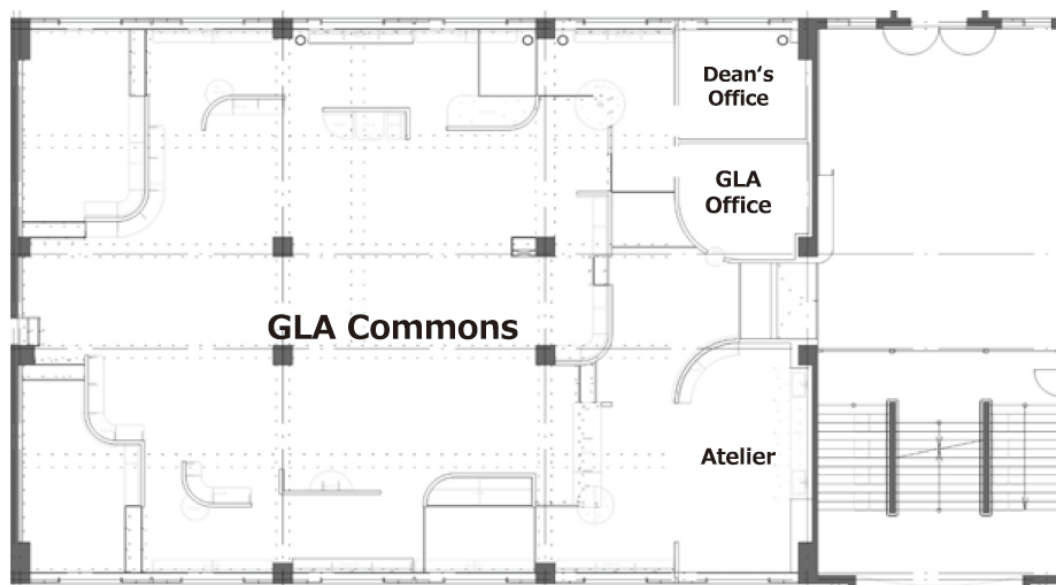
●BORDERLESS

- ・教室という境界をなくし、あらゆる場所が学びの場所となる空間
- ・利用者や使い方を限定しない、開かれた空間
- ・建物やキャンパスを超え、広く世界を意識することができる空間

●CANVAS

- ・自分たちの手で作りこんでいくことができる空間
- ・持続的に使い方や活用の仕方を発見していくことができる空間
- ・そこにいる人、そこを使う人が主役になる空間

<GLA Commons> *3号館2階西側 (KUIS ガーデン側)



(2) 設備・図書等の整備状況

本学部設置に伴う図書等の整備については、「設置の趣旨等を記載した書類」の「(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画」に次のとおり記載している。

なお、本学部の設置に伴い、これまでの言語学や語学教育分野を中心とした資料に加えて、新学部の学修に必要となる国際関係分野の資料の収集に重点を置きつつ一般的な教養分野についても整備をすすめる予定である。特に、データベースでは「Gale in Context: Global Issue」、「Gale in Context: Opposing Viewpoint」、電子ジャーナルでは「Journal of Conflict Resolution」、「Journal of Peace Research」、「International Journal of 24 Law in Context」、「Cultural Studies」などの導入を予定している。

(3) 設備・図書等の整備状況

本学部設置に伴う図書等の整備については、「設置の趣旨等を記載した書類」の「(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画」に次のとおり記載している。

なお、本学部の設置に伴い、これまでの言語学や語学教育分野を中心とした資料に加えて、新学部の学修に必要となる国際関係分野の資料の収集に重点を置きつつ一般的な教養分野についても整備をすすめる予定である。特に、データベースでは「Gale in Context: Global Issue」、「Gale in Context: Opposing Viewpoint」、電子ジャーナルでは「Journal of Conflict Resolution」、「Journal of Peace Research」、「International Journal of 24 Law in Context」、「Cultural Studies」などの導入を予定している。

2023年度中にはSDGsや海外諸国の文化、国際関係を中心に、延べ和書(冊子)60冊、和書(電子書籍)42タイトルを購入し、順次登録ならびに公開を行い学生や教員が利用できるようにした。

「Gale in Context: Global Issue」、「Gale in Context: Opposing Viewpoint」の2つのデータベースについては、2021年度当初は一部の教員による利用に留まっていたが、2022年度は授業内での図書館職員によるガイダンスを実施し、より多くの学生に周知し、授業での利用も促進された。あわせて、データベースの利用方法をいつでも確認できるように、ガイダンス動画を制作し図書館ホームページ上に公開している。2023年度の利用状況は約1700件で、過去最多件数となっており、有効活用されていると言える。

(<https://sites.google.com/kanda.kuis.ac.jp/gale-in-context/>)

データベース	内容
Gale in Context: Global Issue	450以上の国際問題、250の国・地域について、地域紛争、経済格差、人権問題、環境問題、難民問題、外交問題、国際経済、価値観の衝突、サイバー犯罪など、国境を超える様々な国際問題の背景について多角的にとらえ、グローバルな理解と考察をうながす。

Gale in Context: Opposing Viewpoint	正答の存在しない 440 以上の社会問題について、賛成・反対など様々な立場からの実際の論説、レファレンス記事、画像、映像、新聞記事、雑誌記事、ラジオ報道、ウェブサイト、統計などをトピックごとにまとめたポータル形式で提供し、多角的な理解と考察をうながす。
-------------------------------------	--